AVG 9.0 Email Server Edition

ユーザーマニュアル

ドキュメント改訂 90.2 (8. 12. 2009)

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.
その他のすべての商標は各所有者の財産です。

この製品は、RSA Data Security社のMD5 Message-Digest Algorithmを使用しています。著作権 (C) 1991-2, RSA Data Security社。1991年作成。
この製品は、C-SaCzech libraryのコードを使用しています。著作権 (c) 1996-2001 Jaromir Dolecek <dolecek@ics.muni.cz).
この製品は、compression library zlibを使用しています。著作権 (c) 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

コンテンツ

1. はじめに 4

2. AVGインストール要件 5

2.1 対応オペレーションシステム 5
2.2 サポートされている電子メールサーバー 5
2.3 ハードウェア要件 5
2.4 古いバージョンのインストール 6
2.5 MS Exchange サービスパック 6

3. AVGインストールプロセス 8

3.1 インストールの実行 8
3.2 ライセンス契約 9
3.3 システムステータスのチェック 9
3.4 インストールタイプの選択 10
3.5 AVGのアクティベート 10
3.6 カスタムインストール - インストール先フォルダ 11
3.7 カスタムインストール - コンポーネントの選択 12
3.8 カスタムインストール - DataCenter 14
3.9 インストール中 14
3.10 インストール完了 14

4. MS Exchange Server 2007 用 メールスキャナ 15

4.1 概要 15
4.2 E-mail Scanner for MS Exchange (ルーティング TA) 19
4.3 E-mail Scanner for MS Exchange (SMTP TA) 21
4.4 E-mail Scanner for MS Exchange (VSAPI) 21
4.5 検出アクション 24
4.6 メールフィルタリング 26

5. MS Exchange Server 2000/2003 用 メールスキャナ 27

5.1 概要 27
5.2 VSAPI 2.0 30
5.3 E-mail Scanner for MS Exchange (VSAPI) 31
5.4 検出アクション 34
5.5 メールフィルタリング 35

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

6. AVG for Kerio MailServer 37
6.1 構成 37
6.1.1 Antivirus 37
6.1.2 添付ファイルフィルタ 37
7. スパム対策コンフィグレーション 43
7.1 スパム対策インターフェース 43
7.2 スパム対策基本 45
7.3 スパム対策設定 45
7.3.1 スパム対策学習ウィザード 45
7.3.2 メッセージのあるフォルダを選択 45
7.3.3 メッセージフィルタリングオプション 45
7.4 パフォーマンス 51
7.5 RBL 52
7.6 ホワイトリスト 54
7.7 ブラックリスト 55
7.8 高度な設定 56
8. AVG 設定マネージャ 57
9. FAQ およびテクニカルサポート 60

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

1. はじめに

このユーザーマニュアルでは、**AVG 9.0 Email Server Edition**に関する包括的なドキュメントを提供します。

AVG 9.0 Email Server Editionのご購入ありがとうございました。

AVG 9.0 Email Server Editionは、コンピュータの総合的なセキュリティを提供するように設計された、受賞経験のあるAVG製品の1つです。すべての AVG 製品と同様に、AVG の信頼性のあるセキュリティ機能をより分かりやすく、効率的な方法で提供するために、**AVG 9.0 Email Server Edition**は完全に再設計されました。

AVGは、コンピュータとネットワークアクティビティの保護を目的として設計、開発されています。AVGによる完全な保護をぜひ体感してください。

注意: このドキュメントでは、特定の電子メールサーバー版の機能について説明しています。他の AVG 機能に関する情報が必要な場合は、ユーザーガイドの Internet Security 版を参照してください。すべての必要な詳細について説明しています。このガイドは、http://www.avg.com からダウンロードできます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

2. AVGインストール要件

2.1. 対応オペレーションシステム

AVG 9.0 Email Server Editionは次のオペレーティングシステムで稼動している電子メールサーバーの保護を目的としています。

- Windows 2008 Server Edition (x86 および x64)
- Windows 2003 Server (x86, x64) SP1
- Windows 2000 Server SP4 + Update Rollup 1

2.2. サポートされている電子メールサーバー

次の電子メールサーバーがサポートされています。

- *MS Exchange 2000 Server (Service Pack 1 以上) バージョン*

  注意: Exchange 2000 Server - Service Pack 1 (以上) を適用してから、AVG エンジンを使用する必要があります。**AVG for MS Exchange 2000/2003 Server**は Service Pack に含まれる VSAPI 2.0 (あるいは Exchange 2003 Server 付きの 2.5) アプリケーションインターフェースを使用します。

- *MS Exchange 2003 Server バージョン*
- *MS Exchange 2007 Server バージョン*
- ***AVG for Kerio MailServer*** – バージョン 5.x/6.x 以上

2.3. ハードウェア要件

AVG 9.0 Email Server Editionの最低ハードウェア要件:

- Intel Pentium CPU 1.5 GHz
- ハードディスク空き容量 500MB以上 (インストールのため)
- 512 MB の RAM メモリ

AVG 9.0 Email Server Editionの推奨ハードウェア要件:

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- Intel Pentium CPU 1.8 GHz
- ハードディスク空き容量 600MB以上（インストールのため）
- 512 MB の RAM メモリ

2.4. 古いバージョンのインストール

古いバージョンの AVG Email Server をインストールしている場合は、手動でアンインストールしてから、**AVG 9.0 Email Server Edition**をインストールする必要があります。標準の Windows 機能を使用して、古いバージョンを手動でインストールできます。

- スタートメニューから [*スタート/設定/コントロールパネル/プログラムの追加と削除*] を選択し、インストール済みソフトウェアのリストから該当するプログラムを選択します。アンインストールする AVG プログラムを正確に選択してください。電子メール版をアンインストールしてから、AVG File Server Edition をアンインストールする必要があります。
- 電子メールサーバー版をインストールしたら、古いバージョンの AVG File Server Edition をアンインストールできます。スタートメニューから [*スタート/すべてのプログラム/AVG/AVG のアンインストール*
- 以前に AVG 8.x 以前のバージョンを使用した場合は、必ず個々のサーバープラグインもアンインストールしてください。

2.5. MS Exchange サービスパック

AVG for MS Exchange 2000/2003 Server は、VSAPI 2.0/2.5 ウィルススキャンインターフェースを使用するため、MS Exchange 2000 Server の Service Pack 1 (以上) をシステムに適用する必要があります。次のリンクから、最新の MS Exchange 2000 Server の Service Pack を入手してください。

MS Exchange 2000 Server の Service Pack:

http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/exchange/downloads/2000/sp3/default.mspx

MS Exchange 2003 Server では、追加のサービスパックは必要ありません。ただし、可能な最大限のセキュリティのために、最新のサービスパックとほっとフィックスで、システムを最新の状態に保つことをお勧めします。

MS Exchange 2003 Server の Service Pack (任意):

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

http://www.microsoft.com/exchange/evaluation/sp2/overview.mspx

セットアップを開始すると、すべてのシステムライブラリのバージョンがチェックされます。最新のライブラリをインストールする必要がある場合は、インストーラは .delete 拡張子を付けて古いライブラリの名前を変更します。このファイルはシステムの再起動時に削除されます。

MS Exchange 2007 Server の Service Pack (任意):

http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=44c66ad6-f185-4a1d-a9ab-473c1188954c&displaylang=en

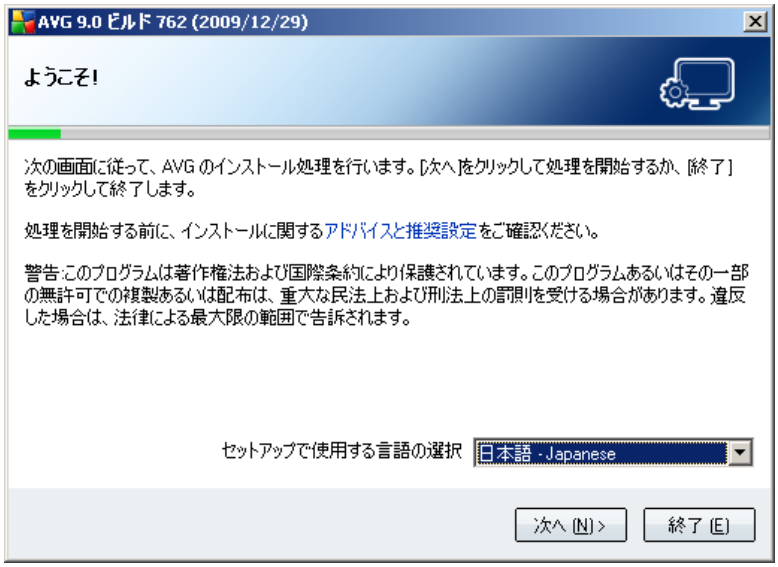
3. AVGインストールプロセス

コンピュータにAVGをインストールするには、最新のインストールファイルを入手する必要があります。パッケージ版内のCDからインストールファイルを使用できますが、このファイルは古い場合があります。したがって、最新のインストールファイルをオンラインで入手することを推奨します。AVG ウェブサイト (http://www.avg.com/download?prd=msw) からファイルをダウンロードできます。

インストールプロセス中は、ライセンス番号を要求されます。インストールを開始する前にライセンス番号/セールス番号を準備してください。セールス番号はCDのパッケージ、購入時のメール中等に記載されています。AVG をオンラインで購入した場合、ライセンス番号はメールで送信されます。

インストールファイルをハードディスクにダウンロードし保存した後、インストールプロセスを実行することができます。インストールは、各ステップの簡潔な操作を記載した一連のダイアログで構成されます。以下は、各ダイアログの説明です。

3.1. インストールの実行



インストールプロセスは*ようこそ*ウィンドウで開始されます。ここで、インストールに使用される言語を選択します。ダイアログの下部に、*セットアップ言語の選択*メニューが表示されます。ドロップダウンメニューから希望する言語を選択します。*次へ*ボタンを押し、次のダイアログへ進みます。

注意：ここで選択する言語はインストールプロセスでのみ使用されます。AVG アプリケーションの言語を選択しているわけではありません。 - AVG アプリケーションの言

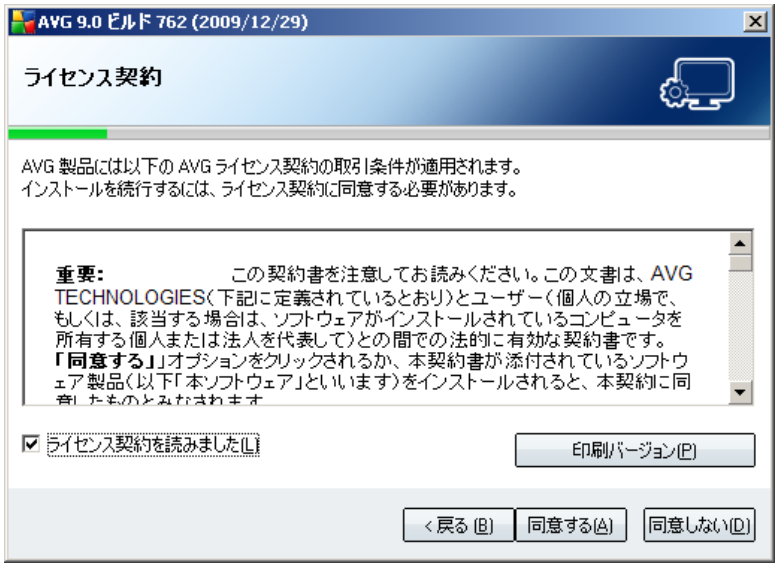
AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

語は、以後のインストールプロセス中で指定できます。

3.2. ライセンス契約

*ライセンス契約*ダイアログは、AVGライセンス契約の全文を提供します。契約内容をよく読んで、[*ライセンス契約を読みました*] チェックボックスにチェックを付け、[*同意する*] ボタンをクリックして、契約を読んで理解して同意することを確認します。ライセンス契約に同意しない場合、*同意しない*ボタンを押してください。インストールプロセスがすぐに中断されます。

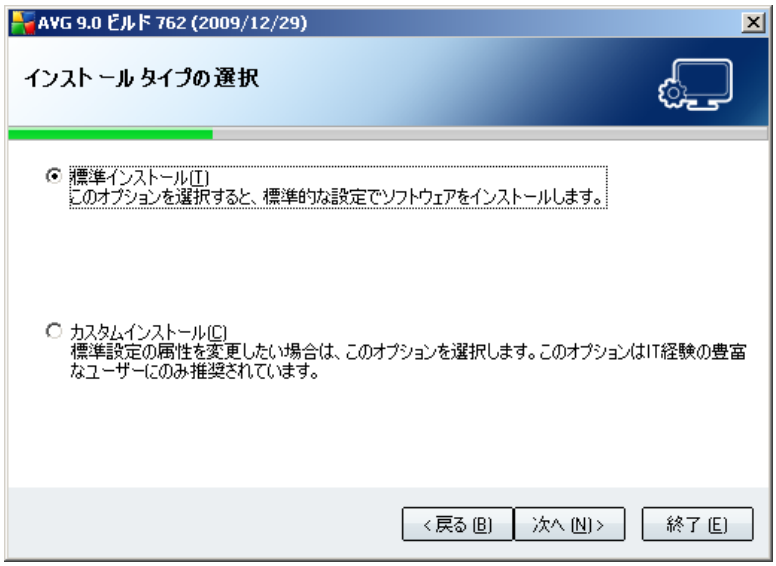
[*印刷バージョン*] ボタンを使用すると、ライセンス契約を印刷できるように新しいウィンドウが開きます。



3.3. システムステータスのチェック

ライセンス使用許諾を確認後、*システムステータスのチェック中*ダイアログが表示されます。このダイアログでは一切の作業は必要ありません。AVGのインストール前にシステムがチェックされます。プロセスが終了するまでお待ちください。その後、自動的に次のダイアログが表示されます。

3.4. インストールタイプの選択



[*インストールタイプの選択*] ダイアログでは、2 つのインストールオプションが提供されます。*標準インストール*と*カスタムインストール*です。

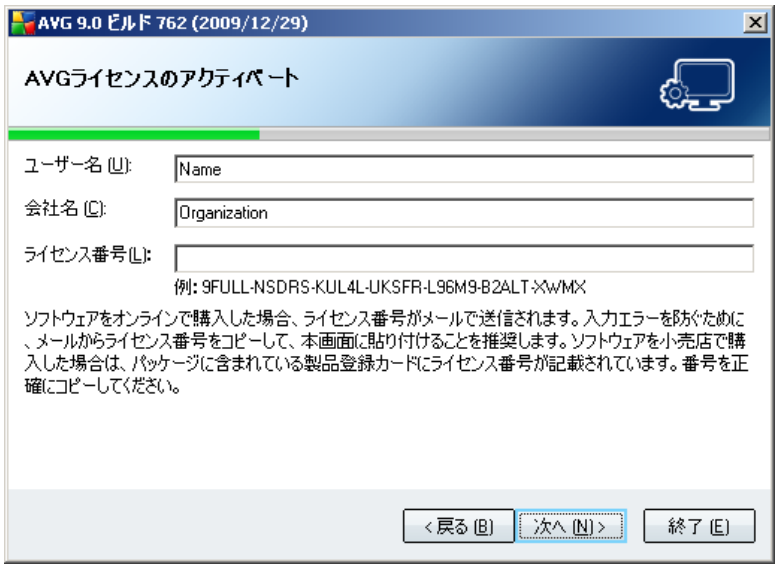
ほとんどのユーザーには、*標準インストール*で、AVG を自動モードで完全にプログラムベンダーによりあらかじめ定義された設定とともにインストールすることが強く推奨されます。この設定は、最適なリソース消費と最大のセキュリティを提供します。将来的に設定の変更の必要が生じた場合、常にAVGアプリケーションで直接変更することができます。

*カスタムインストール*は、AVGを標準設定でインストールしない正当な理由のある場合、経験のあるユーザーのみが行ってください（例：特定のシステムへの適合）。

3.5. AVGのアクティベート

*AVGライセンスのアクティベート*ダイアログでは、登録データを入力する必要があります。名前（*ユーザー名*フィールド）と組織名（*会社名*フィールド）を入力します。

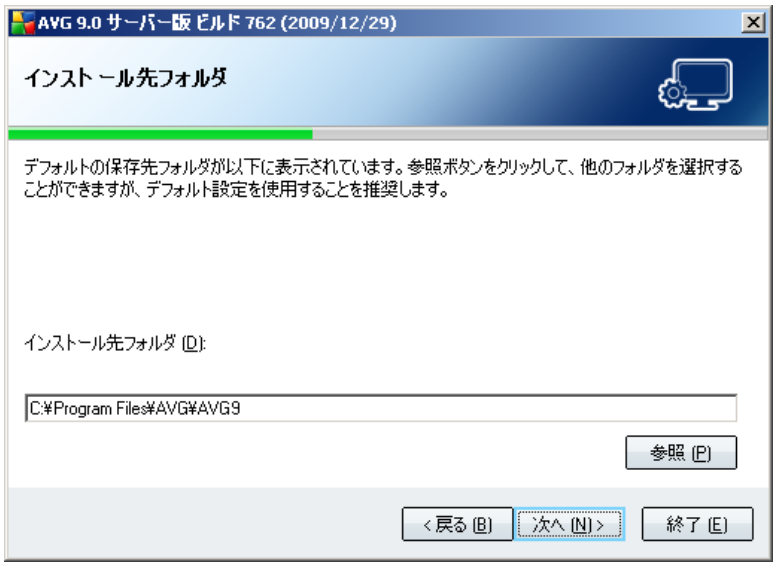
次に、ライセンス番号を*ライセンス番号*欄に入力します。ライセンス番号は AVG をオンラインで購入後に受信する確認メールに記載されています。この番号は記載通り正確に入力される必要があります。デジタル形式のライセンス番号が利用できる（メールで）場合は、コピーとペーストを使用して、それを入力することを推奨します。



*次へ*ボタンをクリックし、インストールプロセスを継続します。

以前のステップで、標準インストールを選択した場合は、直接 [*セットアップサマリ*] ダイアログにリダイレクトされます。カスタムインストールが選択された場合は、*対象フォルダ*ダイアログに進みます。

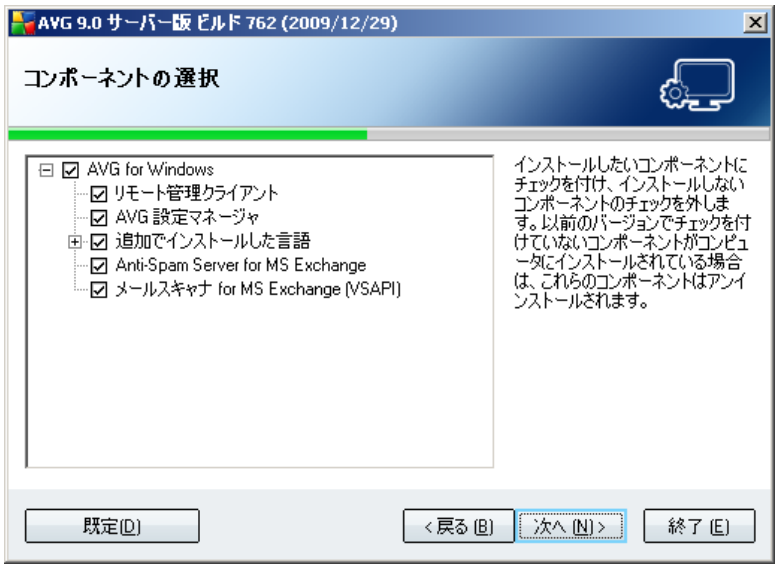
3.6. カスタムインストール - インストール先フォルダ



AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

*インストール先フォルダ*ダイアログでは、AVGがインストールされる場所を指定します。デフォルトでは、AVGは、Cドライブのprogram filesフォルダにインストールされます。この場所を変更したい場合は、*ブラウズ*ボタンを使用してドライブ構成を表示し、対象フォルダを選択します。*次へ*ボタンを押して確認します。

3.7. カスタムインストール - コンポーネントの選択



*コンポーネント選択*ダイアログでは、インストール可能なすべてのAVGコンポーネントが表示されます。デフォルト設定が適当でない場合、特定のコンポーネントを削除/追加することができます。

ただし、購入したAVGに含まれるコンポーネントのみを選択することができます。コンポーネント選択ダイアログでは、これらのコンポーネントのみをインストール可能です。

- *遠隔管理コンポーネント* - AVG を AVG DataCenter (AVG Network Edition) に接続する予定の場合は、このオプションを選択する必要があります。

  注意: リストのサーバーコンポーネントのみをリモートで管理できます。

- *AVG 設定マネージャ* - 主に、AVG 設定をコピー、編集、配布ができるネットワーク管理者に適したツールです。設定はポータブルデバイス (USB フラッシュドライバなど) し、手動またはその他の方法で選択したステーションに適用できます。

- *追加のインストール言語* - AVG のインストールで使用する言語を定義できま

す。*追加でインストールする言語*をチェックし、希望の言語を選択します。

個別のサーバーコンポーネントの基本的な概要

- ***Anti-Spam Server for MS Exchange***

  はすべての受信メールをチェックし、望ましくないメールを SPAM とマークします。複数の分析手法を使用して各メールを処理し、最大限の保護を提供します。

- *E-mail Scanner for MS Exchange（ルーティング Transport Agent）*

  MS Exchange HUB 役割を通過するすべての着信、送信、および内部電子メールメッセージがチェックされます。

  MS Exchange 2007 で使用でき、HUB 役割のみにインストールできます。

- *E-mail Scanner for MS Exchange（SMTP 転送エージェント）*

  MS Exchange SMTP インターフェイスから着信したすべての電子メールメッセージをチェックします。

  MS Exchange 2007 のみで使用でき、EDGE 役割および HUB 役割の両方にインストールできます。

- ***E-mail Scanner for MS Exchange（VSAPI）***

  ユーザーのメールボックスに格納されるすべてのメールメッセージをチェックします。ウィルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

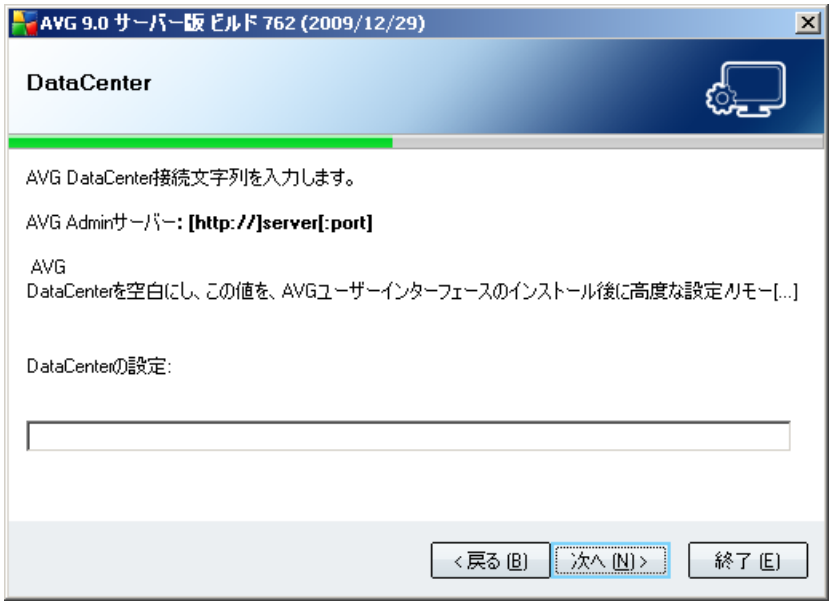
注意：MS Exchange 2007 および MS Exchange 2003 では、別のオプションを利用できます。

*次へ*ボタンを押して継続します。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

3.8. カスタムインストール - DataCenter

モジュール選択中に、*遠隔管理コンポーネント*を選択した場合は、この画面で、AVG DataCenter への接続時に使用する接続文字列を定義できます。



3.9. インストール中

*インストール中ダイアログは、インストールプロセスの進捗を表示します。ユーザーの操作は必要としません。*インストールが完了するまでお待ちください。この後、*インストール完了*ダイアログが表示されます。

3.10. インストール完了

*インストール完了*ダイアログはAVGインストールプロセスの最後のステップです。AVGはコンピュータにインストールされ、完全に機能しています。プログラムは完全自動モードでバックグラウンドで実行中です。

電子メールサーバーの保護を個々に設定する場合は、該当する章に従ってください。

- *MS Exchange Server 2007 用メールスキャナ*
- ****MS Exchange Server 2000/ 2003 用メールスキャナ*
- ***AVG for Kerio MailServer***

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

4. MS Exchange Server 2007 用 メールスキャナ

4.1. 概要

AVG for MS Exchange Server 2007 コンフィグレーションオプションは、完全にサーバーコンポーネントとしてAVG 9.0 Email Server Editionと統合されています。

個別のサーバーコンポーネントの基本的な概要

- *スパム対策 - MS Exchange 向けスパム対策サーバー*

  はすべての受信メールをチェックし、望ましくないメールを SPAM とマークします。複数の分析手法を使用して各メールを処理し、最大限の保護を提供します。

- *EMS (ルーティング) - MS Exchange 向け電子メールスキャナ (ルーティングトランスポートエージェント)*

  MS Exchange HUB 役割を通過するすべての着信、送信、および内部電子メールメッセージがチェックされます。

  MS Exchange 2007 で使用でき、HUB 役割のみにインストールできます。

- *EMS (SMTP) - MS Exchange 向け電子メールスキャナ (SMTP トランスポートエージェント)*

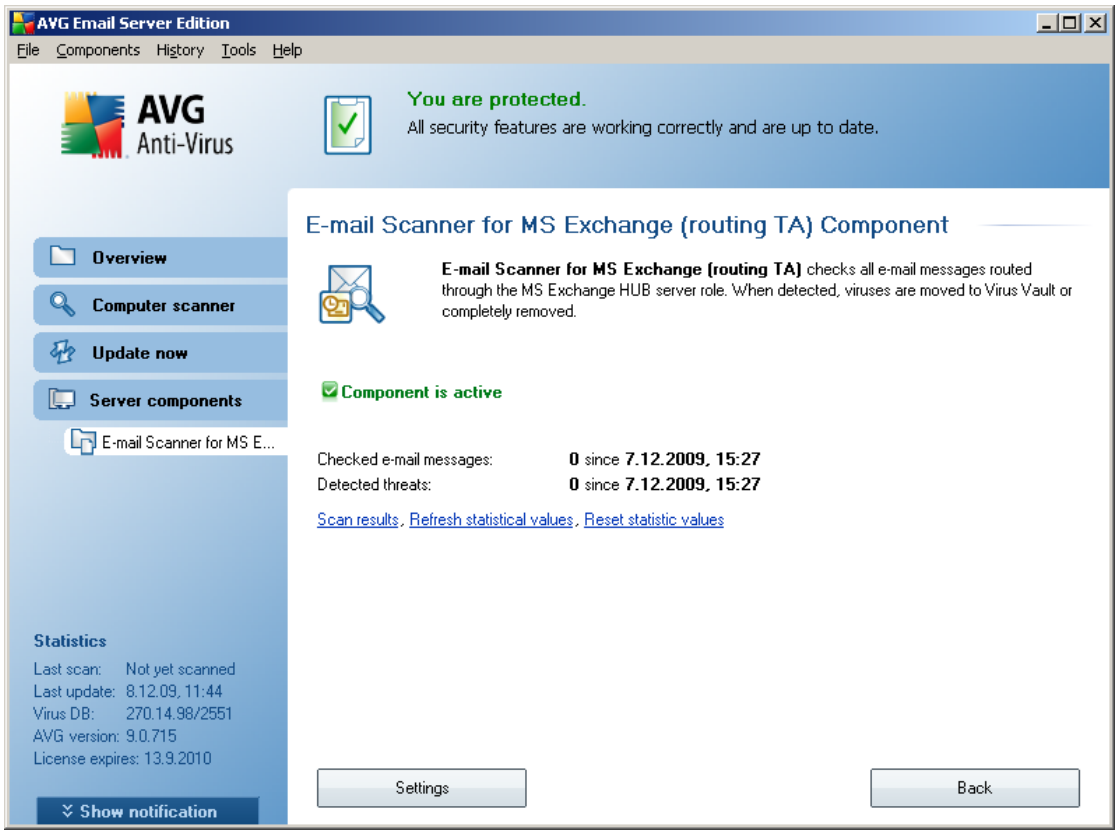
  MS Exchange SMTP インターフェイスから着信したすべての電子メールメッセージをチェックします。

  MS Exchange 2007 のみで使用でき、EDGE 役割および HUB 役割の両方にインストールできます。

- *EMS (VSAPI) - MS Exchange 向け電子メールスキャナ (VSAPI)*

  ユーザーのメールボックスに格納されるすべてのメールメッセージをチェックします。ウィルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

必要なコンポーネントをクリックすると、インターフェースが開きます。スパム対策を除き、すべてのコンポーネントで同じコントロールボタンとリンクを使用します。



- *スキャン結果*

  スキャン結果を確認するための新しいダイアログが開きます。

ここでは、重要度に応じてメッセージが複数のタブに分かれて表示されます。重要度の変更と報告については、個々のコンポーネントのコンフィグレーションを参照してください。

既定では、過去 2 日間の結果のみが表示されます。次のオプションを変更することで、表示期間を変更できます。

- *次の過去の期間内の結果を表示* - 希望の日数と時間数を入力します。
- *選択した期間の結果を表示* - カスタム日時間隔を選択します。
- *すべて表示* - 期間全体の結果を表示します。

[*更新*] ボタンを使用すると、結果をロードします。

- *統計値を更新* - 上記で表示される統計値を更新します。
- *統計値をリセット* - すべての統計値をゼロにリセットします。

次の操作ボタンがあります。

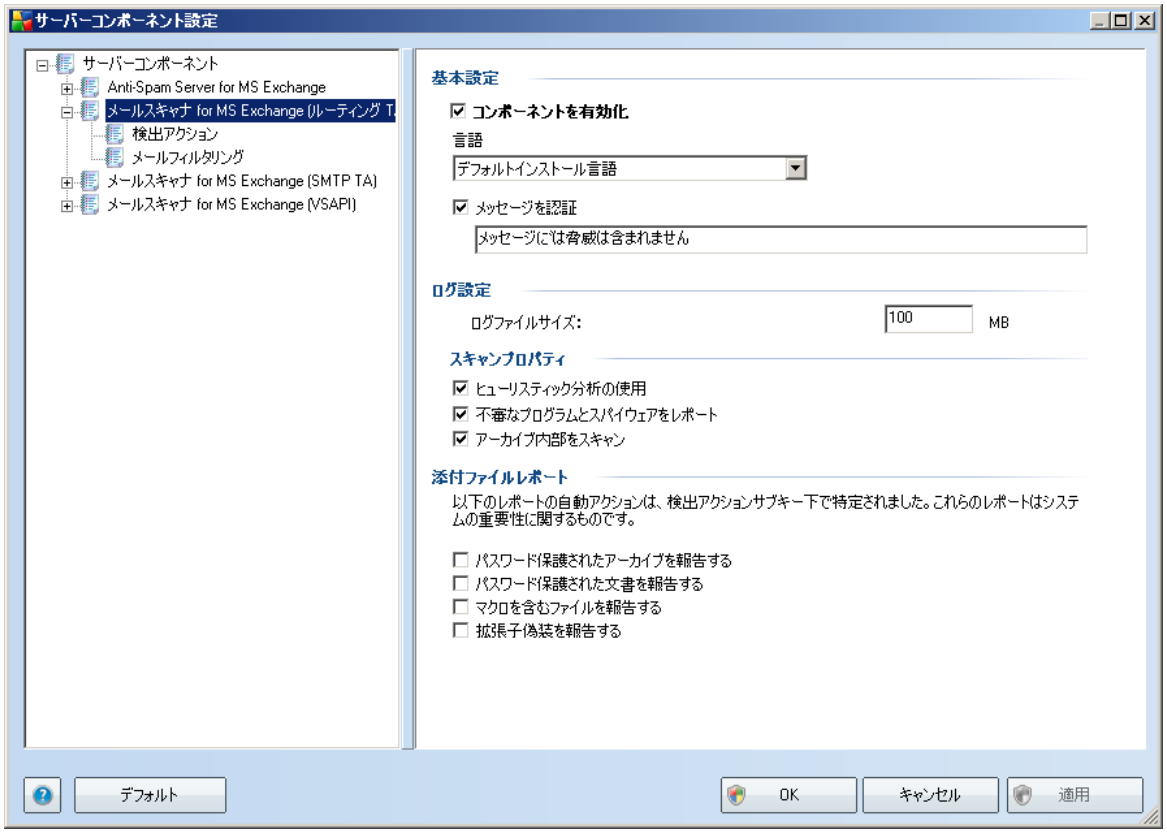
- *設定* - このボタンをクリックすると、コンポーネントの設定が開きます。
- *戻る* – このボタンをクリックすると、サーバーコンポーネント概要

次の章では、すべてのコンポーネントの個々の設定に関して詳細に説明しています。

4.2. E-mail Scanner for MS Exchange (ルーティング TA)

E-mail Scanner for MS Exchange (ルーティングトランスポートエージェント) の設定を開くには、コンポーネントのインターフェースから *[設定]* ボタンを選択します。

[*サーバーコンポーネント*] リストから、[*MS Exchange 向け電子メールスキャナ (ルーティング TA)*] 項目を選択します。



[*基本設定*] セクションは次のオプションを含みます。

- *コンポーネントの有効化* - すべてのコンポーネントを無効化するにはチェックをオフにします。
- *言語* - 希望するコンポーネント言語を選択します。
- *メッセージを認証* - すべてのスキャン済みメッセージに認証を追加する場合はこのチェックをオンにします。次のフィールドでメッセージをカスタマイズできます。

[*ログ設定*] セクション:

- *ログファイルサイズ* - 希望のログファイルサイズを選択します。既定値は 100 MB です。

[*スキャンプロパティ*] セクション:

- *ヒューリスティックを使用する* - ヒューリスティック分析方式を有効にするにはこのチェックをオンにします。
- *不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告* - 不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告するにはこのオプションのチェックをオンにします。
- *アーカイブ内部をスキャン* - アーカイブファイル内（zip、rar 等）もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[*メール添付報告*] セクションではスキャン中にどのアイテムを報告するかを選択できます。チェックがオンの場合、そのようなアイテムを含む各メールは件名欄に [INFORMATION] を含みます。これはデフォルトの設定で、[*検出アクションのセクション*] の [*情報*] パートから簡単に修正できます（次を参照）。

次のオプションが利用可能です。

- *パスワードで保護されたアーカイブを報告*
- *パスワードで保護されたドキュメントを報告*
- *マクロを含むファイルを報告*
- *隠された拡張子を報告*

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- *検出アクション*
- *メールフィルタリング*

4.3. E-mail Scanner for MS Exchange (SMTP TA)

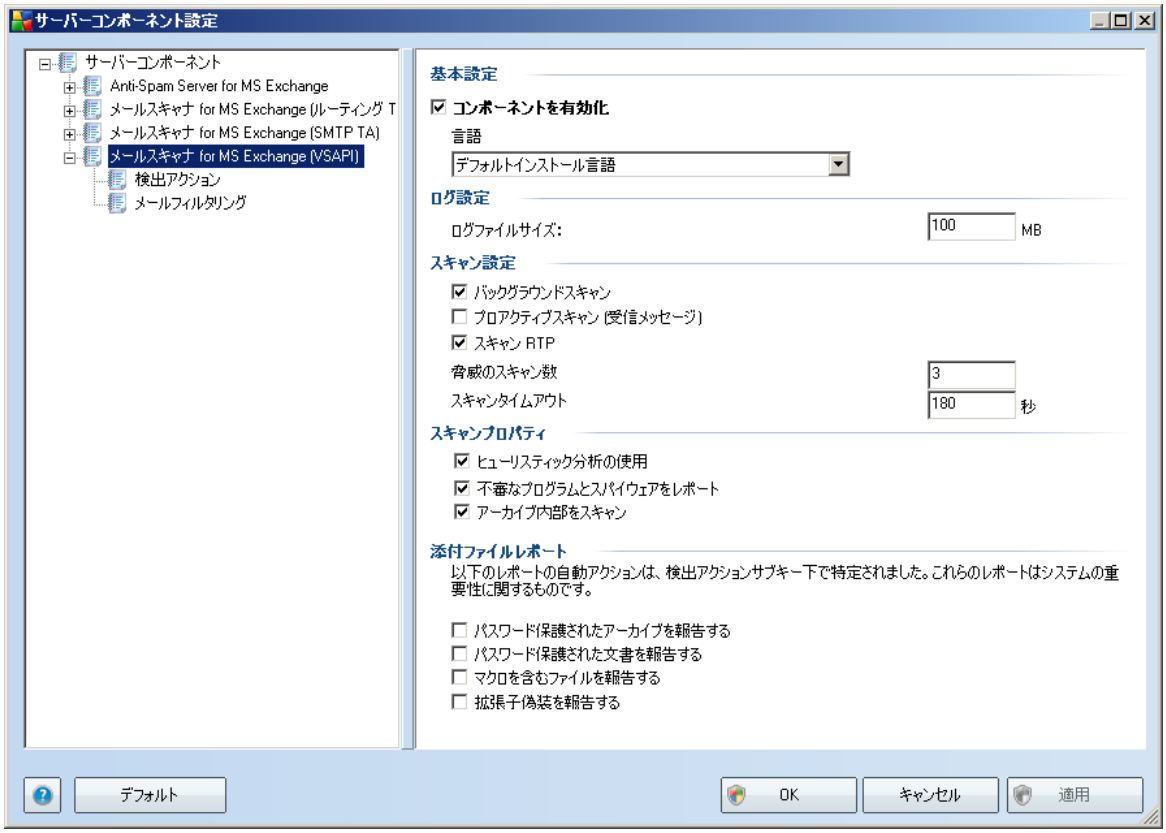
[*MS Exchange (SMTP TA) 向けメールスキャナ*] 設定はトランスポートエージェントのルーティングと全く同じです。詳細については、前述の *MS Exchange (ルーティング TA) 向けメールスキャナ*の章をご覧ください。

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- *検出アクション*
- *メールフィルタリング*

4.4. E-mail Scanner for MS Exchange (VSAPI)

このアイテムは MS Exchange (VSAPI) 向けメールスキャナの設定を含みます。



[*基本設定*] セクションは次のオプションを含みます。

- *コンポーネントの有効化* - すべてのコンポーネントを無効化するにはチェックをオフにします。
- *言語* - 希望するコンポーネント言語を選択します。

[*ログ設定*] セクション:

- *ログファイルサイズ* - 希望のログファイルサイズを選択します。既定値は 100 MB です。

[*スキャン設定*] セクション:

- *バックグラウンドスキャン - ここでバックグラウンドスキャンプロセスを有効化/無効化できます。*バックグラウンドスキャンは VSAPI 2.0/2.5 アプリケーションインターフェース機能の 1 つです。Exchange Messaging Database のスレッド化されたスキャンを提供します。最新の AVG ウィルスベースアップデートでスキャンされなかったアイテムがユーザーのメールボックスフォルダに入った場合は、スキャンのため AVG for Exchange 2007 Server へ送られます。検査されていないオブジェクトのスキャンと検索は並列で実行されます。

  特定の低優先度スレッドは各データベースで使用されます。これにより、他のタスク (E-mail Scanner for MS Exchange データベースの電子メールストレージなど) が常に優先して実行されることが保証されます。

- *プロアクティブスキャン (受信メッセージ)*

  ここで VSAPI 2.0/2.5 のプロアクティブスキャン機能を有効化/無効化できます。このスキャンはアイテムがフォルダに届けられたがクライアントによる要求がされていない場合に実行します。

  メッセージは Exchage 保管庫に送られると同時に、低優先度としてグローバルスキャンの待ち行列に入ります。先入れ先出し (FIFO) ベースでスキャンされます。アイテムが待ち行列にある間アクセスを受けた場合、高優先度に変更されます。

  注意:

注意: [バックグラウンドスキャン] と [プロアクティブスキャン] オプションを無効にしても、ユーザーが MS Outlook クライアントでメッセージをダウンロードする際にアクセススキャナは有効です。

- *RTF をスキャン* - ここで RTF ファイルタイプをスキャンするかどうかを指定できます。
- *スキャンスレッド数 - スキャンプロセスは既定ではスレッド化され、あるレベルの並列性によりスキャンパフォーマンス全体が向上します。*ここでスレッド数を変更できま

す。

デフォルトのスレッド数は「プロセッサ数」の2倍 + 1 です。

スレッドの最小数は「プロセッサ数」 +1 を 2 で割った数です。

スレッドの最大数は「プロセッサ数」の 5 倍 +1 です。

値が最小値もしくはそれ以下の場合、または最大値もしくはそれ以上の場合はデフォルト値が使用されます。

- *スキャンタイムアウト* - 1 つのスレッドがスキャンされているメッセージにアクセスする最大継続間隔（秒数）です（デフォルト値は 180 秒）。

[*スキャンプロパティ*] セクション：

- *経験則を使用する* - 経験則分析メソッドを有効にするにはこのチェックをオンにします。
- *不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告* - 不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告するにはこのオプションのチェックをオンにします。
- *アーカイブ内部をスキャン* - アーカイブファイル内（zip、rar 等）もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[*メール添付報告*] セクションではスキャン中にどのアイテムを報告するかを選択できます。デフォルトの設定は [*検出アクションのセクション*] の [*情報*] パートから簡単に修正できます（次を参照）。

次のオプションが利用可能です。

- *パスワードで保護されたアーカイブを報告*
- *パスワードで保護されたドキュメントを報告*
- *マクロを含むファイルを報告*
- *隠された拡張子を報告*

一般的に、これらの機能の一部は、Microsoft VSAPI 2.0/2.5 アプリケーションインターフェースサービスのユーザー拡張です。VSAPI 2.0/2.5 に関する詳細については、次のリンクと参照リンクからアクセスできるリンクを確認してください。

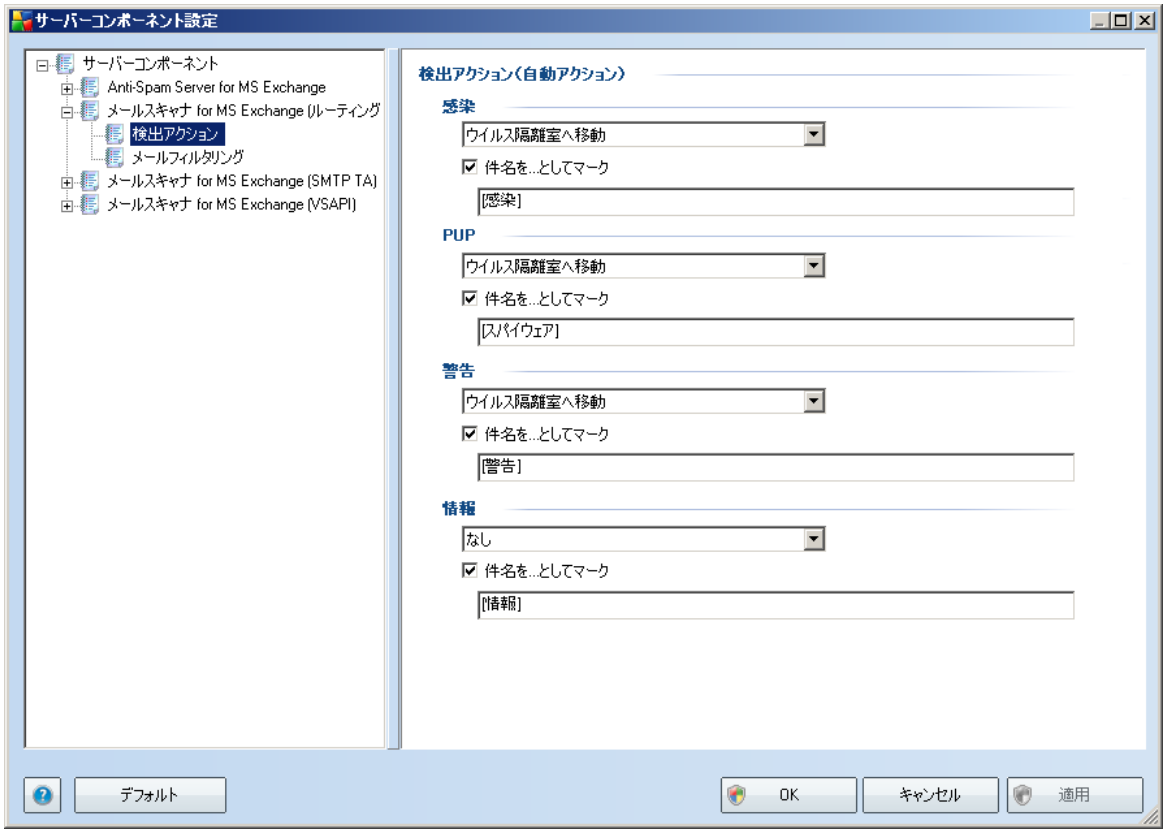
- http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;328841&Product=exch2k - Exchange ウィルス対策ソフトウェア連携の情報

- http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;823166 Exchange 2003 Server アプリケーションでの追加 VSAPI 2.5 機能の情報

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- *検出アクション*
- *メールフィルタリング*

4.5. 検出アクション



[*検出アクション*] サブアイテムでは、スキャン処理中の自動アクションを選択できます。

このアクションは以下のアイテムで利用可能です。

- *感染*

- *PUP（不審なプログラム）*
- *警告*
- *情報*

ロールダウンメニューを使い、各アイテムのアクションを選択します。

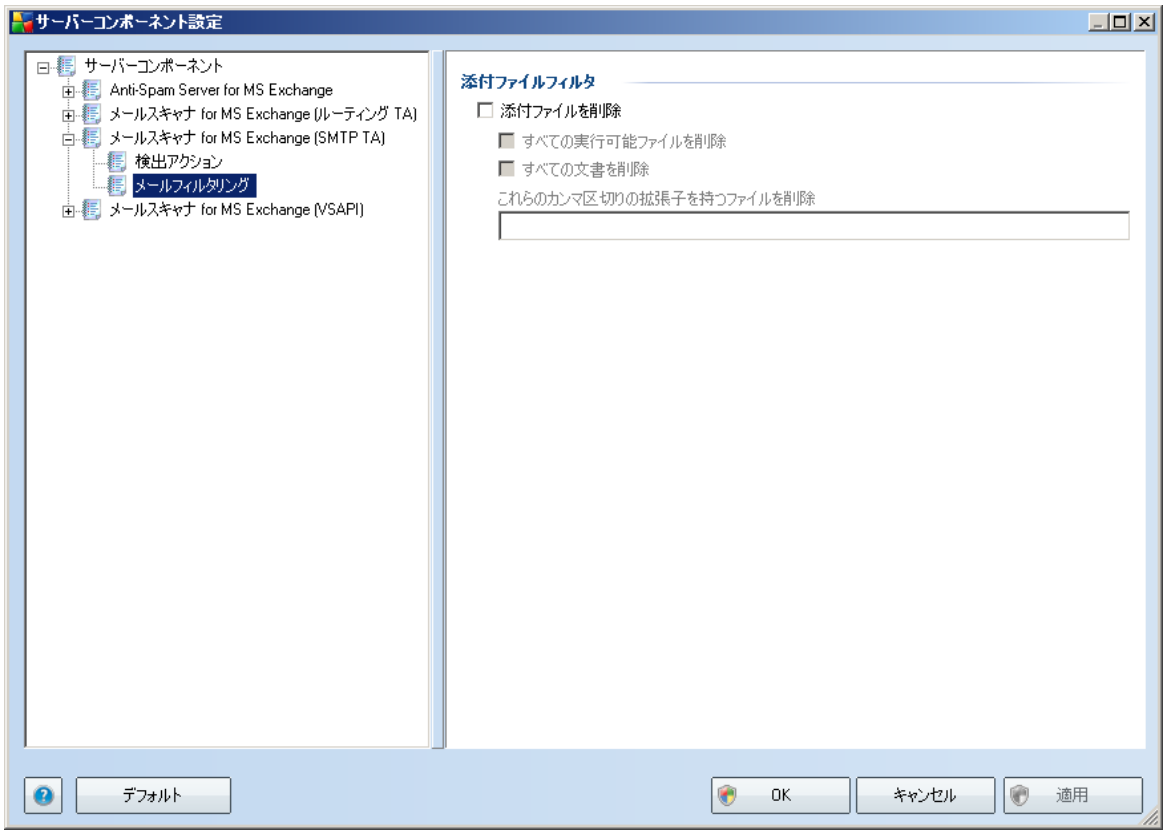
- *なし* - アクションは行われません。
- *ウイルス隔離室に移動* - 既知の脅威はウイルス隔離室に移動します。
- *削除* - 既知の脅威は削除されます。

既知のアイテムや脅威を含むメッセージの件名文を選択する場合は、[*...を含む件名をマークする*] ボックスのチェックをオンにし、希望の値を入力します。

注意: 最後に説明されている機能は、MS Exchange VSAPI 向け電子メールスキャナでは利用できません。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

4.6. メールフィルタリング



[*メールフィルタリング*] サブアイテムでは、自動的に削除する添付ファイル（ある場合）を選択できます。次のオプションを使用できます。

- *添付ファイルを削除* - このボックスをオンにして、機能を有効にします。
- *すべての実行可能ファイルを削除* - すべての実行可能ファイルが削除されます。
- *すべてのドキュメントを削除* - すべてのドキュメントファイルが削除されます。
- *コンマで区切られた拡張子でファイルを削除* - 自動的に削除するボックスをファイル拡張子で埋めます。拡張子をコンマで区切ります。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

5. MS Exchange Server 2000/2003 用 メールスキャナ

5.1. 概要

MS Exchange Server 2000/2003 向け電子メールスキャナのコンフィグレーションオプションは、完全にサーバーコンポーネントとしてAVG 9.0 Email Server Editionと統合されています。

サーバーコンポーネントには次が含まれます。

個別のサーバーコンポーネントの基本的な概要

- *スパム対策 - MS Exchange 向けスパム対策サーバー*

  はすべての受信メールをチェックし、望ましくないメールを SPAM とマークし

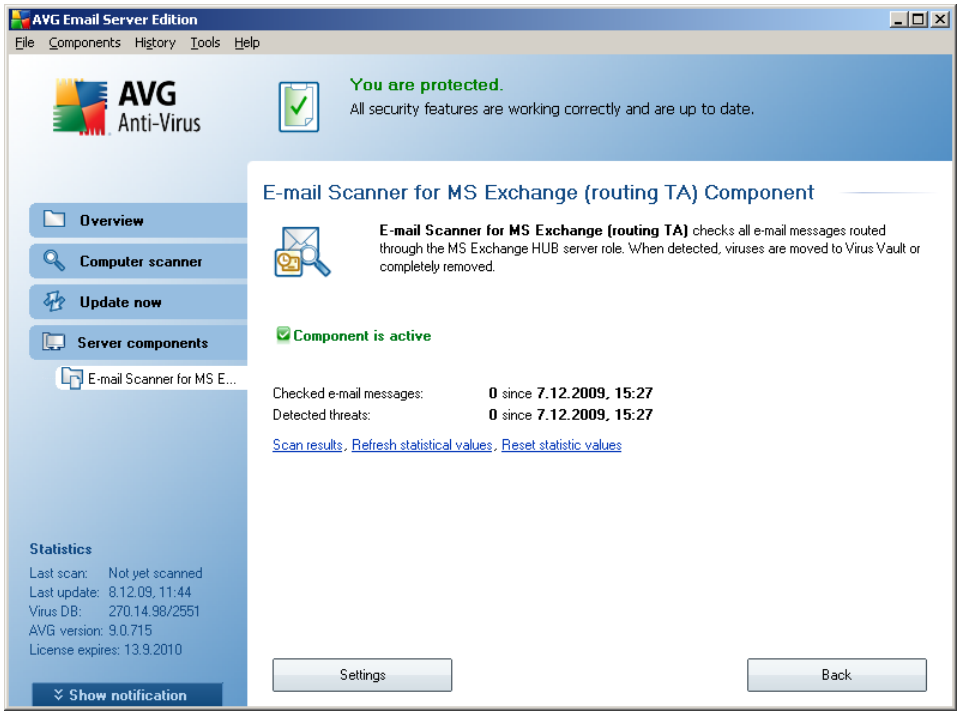
AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

ます。複数の分析手法を使用して各メールを処理し、最大限の保護を提供します。

- *EMS (VSAPI) - MS Exchange 向け電子メールスキャナ (VSAPI)*

  ユーザーのメールボックスに格納されるすべてのメールメッセージをチェックします。ウィルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

必要なコンポーネントをクリックすると、インターフェースが開きます。スパム対策を除き、すべてのコンポーネントで同じコントロールボタンとリンクを使用します。



- *スキャン結果*

  スキャン結果を確認するための新しいダイアログが開きます。

ここでは、重要度に応じてメッセージが複数のタブに分かれて表示されます。重要度の変更と報告については、個々のコンポーネントのコンフィグレーションを参照してください。

既定では、過去 2 日間の結果のみが表示されます。次のオプションを変更することで、表示期間を変更できます。

- *次の過去の期間内の結果を表示* - 希望の日数と時間数を入力します。
- *選択した期間の結果を表示* - カスタム日時間隔を選択します。
- *すべて表示* - 期間全体の結果を表示します。

[*更新*] ボタンを使用すると、結果をロードします。

- *統計値を更新* - 上記で表示される統計値を更新します。
- *統計値をリセット* - すべての統計値をゼロにリセットします。

次の操作ボタンがあります。

- *設定* - このボタンをクリックすると、コンポーネントの設定が開きます。
- *戻る* – このボタンをクリックすると、サーバーコンポーネント概要

次の章では、すべてのコンポーネントの個々の設定に関して詳細に説明しています。

5.2. VSAPI 2.0

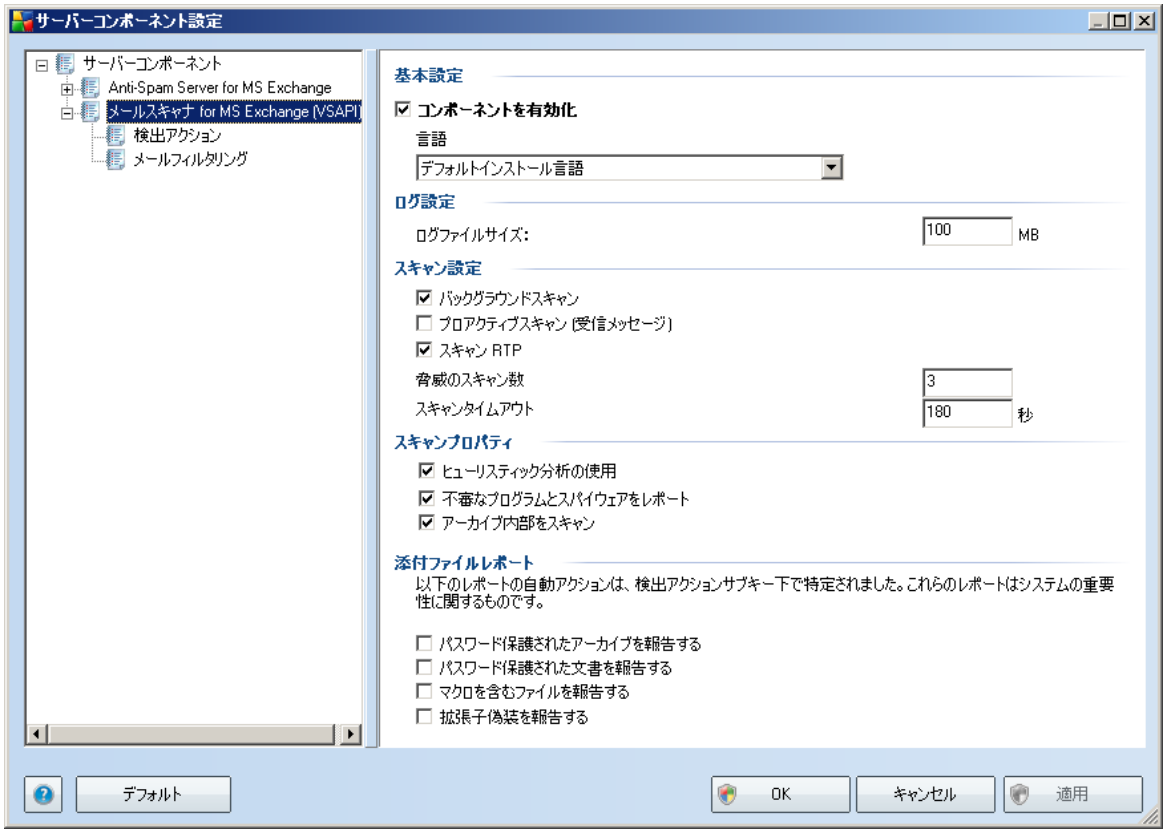
Virus Scanning API 2.0 (MS Exchange 2000 Server で提供されている VSAPI 2.0) では、感染した電子メールファイルの削除ができません。ウィルス感染した電子メールメッセージ添付ファイルを削除できないため、ファイル名が変更されます。AVG for Exchange 2000/2003 Server は元のファイル名に .virusinfo.txt 拡張子を追加します。ファイル内容な既知のウィルスに関するメッセージで上書きされます。ウィルスがメッセージで直接検出された場合は、このメッセージ内でウィルスが検出されたことを示すメモでメッセージ本文全体が上書きされます。

Virus Scanning API 2.5 *(MS Exchange 2003 Server で提供されている VSAPI 2.5)* では、感染メッセージの削除ができます。この機能は AVG for MS Exchange 2000/2003 Server コンフィグレーションダイアログで設定できます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

5.3. E-mail Scanner for MS Exchange (VSAPI)

このアイテムは MS Exchange (VSAPI) 向けメールスキャナの設定を含みます。



[*基本設定*] セクションは次のオプションを含みます。

- *コンポーネントの有効化* - すべてのコンポーネントを無効化するにはチェックをオフにします。
- *言語* - 希望するコンポーネント言語を選択します。

[*ログ設定*] セクション:

- *ログファイルサイズ* - 希望のログファイルサイズを選択します。既定値は 100 MB です。

[*スキャン設定*] セクション:

- *バックグラウンドスキャン - ここでバックグラウンドスキャンプロセスを有効化/無効化できます。*バックグラウンドスキャンは VSAPI 2.0/2.5 アプリケーションインターフェース機能の 1 つです。Exchange Messaging Database のスレッド化されたスキャンを提供します。最新の AVG ウィルスベースアップデートでスキャンされなかったアイテムがユーザーのメールボックスフォルダに入った場合は、スキャンのため AVG for Exchange 2007 Server へ送られます。検査されていないオブジェクトのスキャンと検索は並列で実行されます。

  特定の低優先度スレッドは各データベースで使用されます。これにより、他のタスク (E-mail Scanner for MS Exchange データベースの電子メールストレージなど) が常に優先して実行されることが保証されます。

- *プロアクティブスキャン (受信メッセージ)*

  ここで VSAPI 2.0/2.5 のプロアクティブスキャン機能を有効化/無効化できます。このスキャンはアイテムがフォルダに届けられたがクライアントによる要求がされていない場合に実行します。

  メッセージは Exchage 保管庫に送られると同時に、低優先度としてグローバルスキャンの待ち行列に入ります。先入れ先出し (FIFO) ベースでスキャンされます。アイテムが待ち行列にある間アクセスを受けた場合、高優先度に変更されます。

  注意:

注意: [バックグラウンドスキャン] と [プロアクティブスキャン] オプションを無効にしても、ユーザーが MS Outlook クライアントでメッセージをダウンロードする際にアクセススキャナは有効です。

- *RTF をスキャン* - ここで RTF ファイルタイプをスキャンするかどうかを指定できます。
- *スキャンスレッド数 - スキャンプロセスは既定ではスレッド化され、あるレベルの並列性によりスキャンパフォーマンス全体が向上します。*ここでスレッド数を変更できます。

  デフォルトのスレッド数は「プロセッサ数」の2倍 + 1 です。

  スレッドの最小数は「プロセッサ数」 +1 を 2 で割った数です。

  スレッドの最大数は「プロセッサ数」の 5 倍 +1 です。

  値が最小値もしくはそれ以下の場合、または最大値もしくはそれ以上の場合はデフォルト値が使用されます。

- *スキャンタイムアウト* - 1 つのスレッドがスキャンされているメッセージにア

クセスする最大継続間隔（秒数）です（デフォルト値は 180 秒）。

[*スキャンプロパティ*] セクション：

- *経験則を使用する* - 経験則分析メソッドを有効にするにはこのチェックをオンにします。
- *不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告* - 不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告するにはこのオプションのチェックをオンにします。
- *アーカイブ内部をスキャン* - アーカイブファイル内（zip、rar 等）もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[*メール添付報告*] セクションではスキャン中にどのアイテムを報告するかを選択できます。デフォルトの設定は [*検出アクションのセクション*] の [*情報*] パートから簡単に修正できます（次を参照）。

次のオプションが利用可能です。

- *パスワードで保護されたアーカイブを報告*
- *パスワードで保護されたドキュメントを報告*
- *マクロを含むファイルを報告*
- *隠された拡張子を報告*

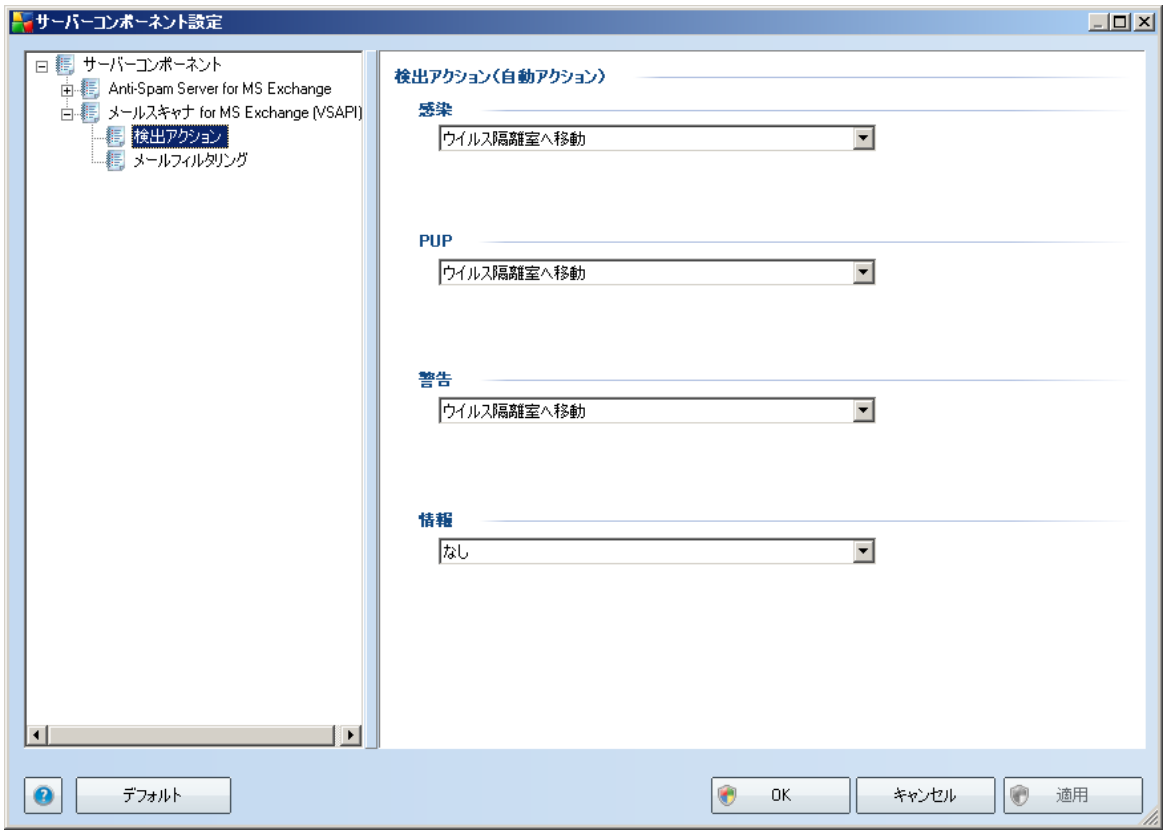
一般的に、これらの機能はすべて、Microsoft VSAPI 2.0/2.5 アプリケーションインターフェースサービスのユーザー拡張です。VSAPI 2.0/2.5 に関する詳細については、次のリンクと参照リンクからアクセスできるリンクを確認してください。

- http://support.microsoft.com:80/support/kb/articles/Q285/6/67.ASP Exchange 2000 Server Service Pack における VSAPI 2.0 の一般情報
- http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;328841&Product=exch2k - Exchange ウィルス対策ソフトウェア連携の情報
- http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;823166 Exchange 2003 Server アプリケーションでの追加 VSAPI 2.5 機能の情報

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- *検出アクション*
- *メールフィルタリング*

5.4. 検出アクション



[*検出アクション*] サブアイテムでは、スキャン処理中の自動アクションを選択できます。

このアクションは以下のアイテムで利用可能です。

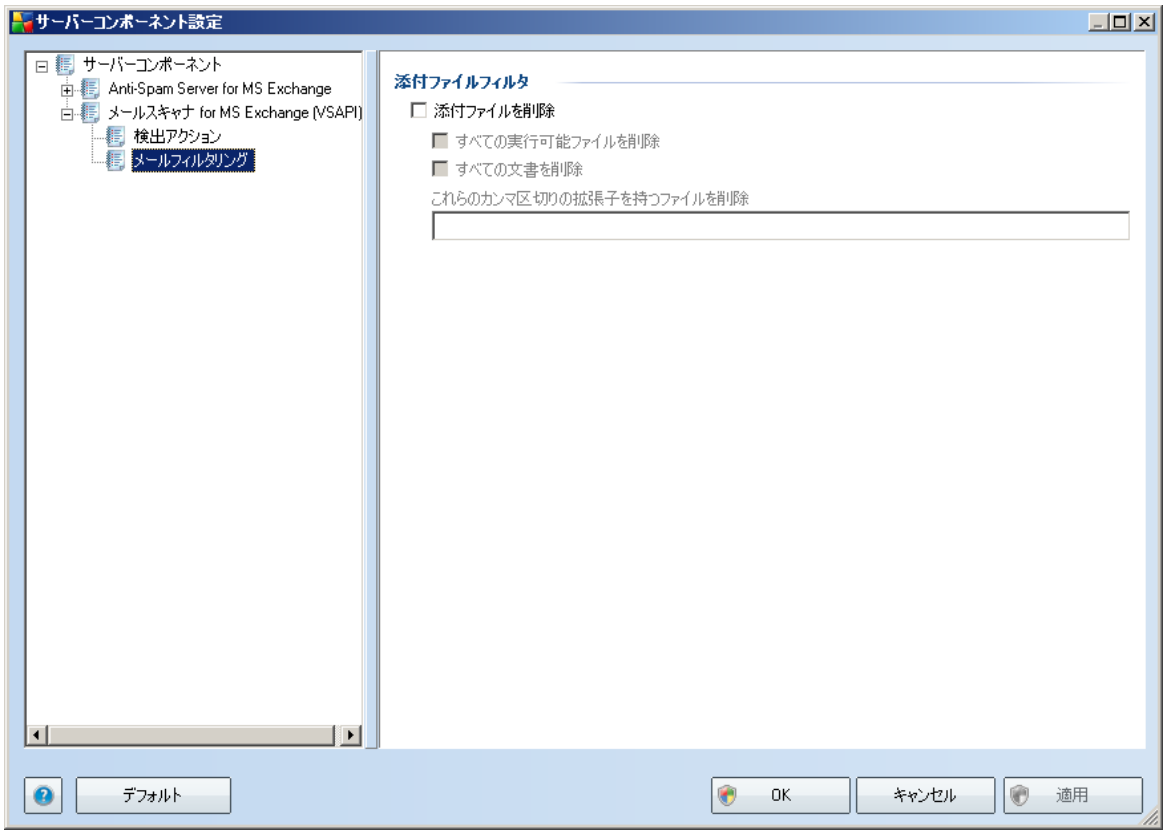
- *感染*
- *PUP（不審なプログラム）*
- *警告*
- *情報*

ロールダウンメニューを使い、各アイテムのアクションを選択します。

- *なし* - アクションは行われません。

- *ウイルス隔離室に移動* - 既知の脅威はウイルス隔離室に移動します。
- *削除* - 既知の脅威は削除されます。

5.5. メールフィルタリング



[*メールフィルタリング*] サブアイテムでは、自動的に削除する添付ファイル（ある場合）を選択できます。 次のオプションを使用できます。

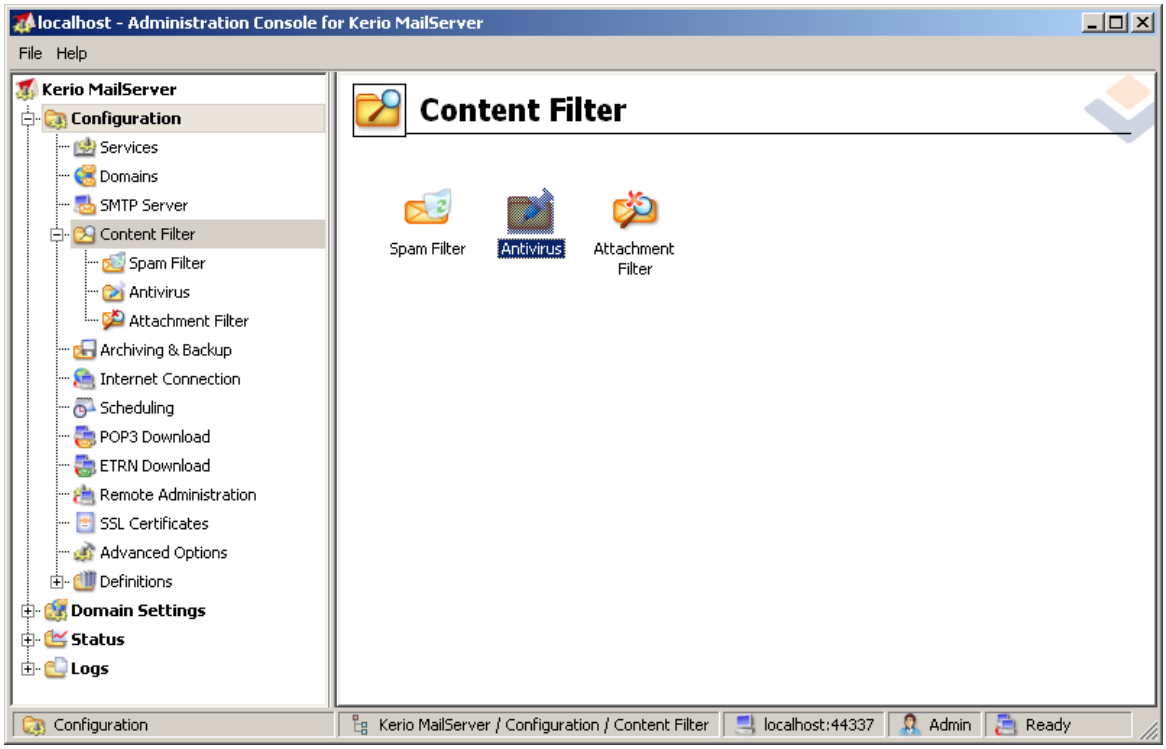
- *添付ファイルを削除* - このボックスをオンにして、機能を有効にします。
- *すべての実行可能ファイルを削除* - すべての実行可能ファイルが削除されます。
- *すべてのドキュメントを削除* - すべてのドキュメントファイルが削除されます。
- *コンマで区切られた拡張子でファイルを削除* - 自動的に削除するボックスを

ファイル拡張子で埋めます。拡張子をコンマで区切ります。

6. AVG for Kerio MailServer

6.1. 構成

ウィルス対策保護メカニズムは Kerio MailServer アプリケーションと直接統合されています。AVG スキャンエンジンで Kerio MailServer の電子メール保護を有効化するには、Kerio Administration Console アプリケーションを起動します。アプリケーションウィンドウの左側のコントロールツリーで、[Configuration] ブランチの [Content Filter] サブブランチを選択します。

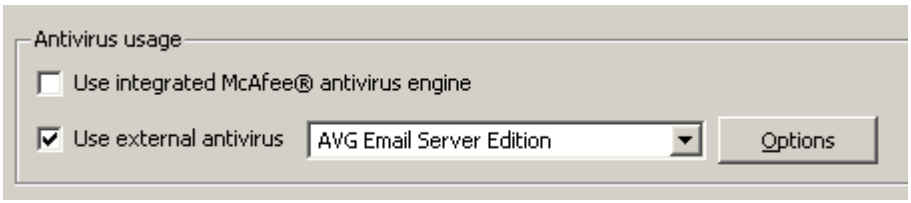


[Content Filter] 項目をクリックすると、3 つの項目が含まれるダイアログが表示されます。

- ***Spam Filter***
- ***Antivirus*** (*ウィルス対策*の項を参照)
- ***Attachment Filter*** (*添付ファイルフィルタ*の項を参照)

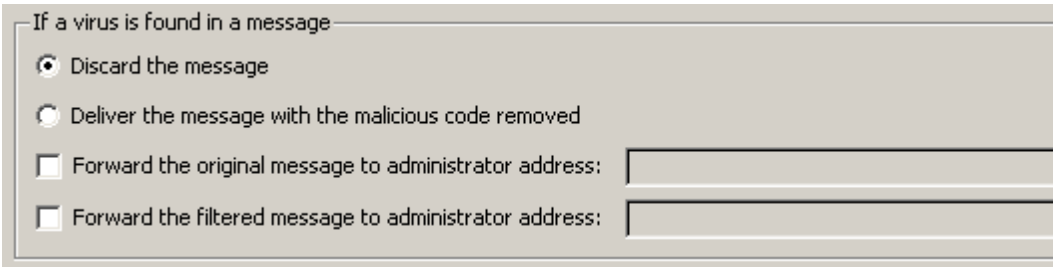
6.1.1. Antivirus

AVG for Kerio MailServer を有効化するには、[外部ウィルス対策を使用] チェックボックスを選択し、コンフィグレーションウィンドウの [ウィルス対策使用] フレームの [外部ソフトウェア] メニューから [AVG Email Server Edition] 項目を選択します。



次のセクションでは、感染したメッセージまたはフィルタリングされたメッセージの処理方法を指定できます。

- *メッセージでウィルスが検出された場合*

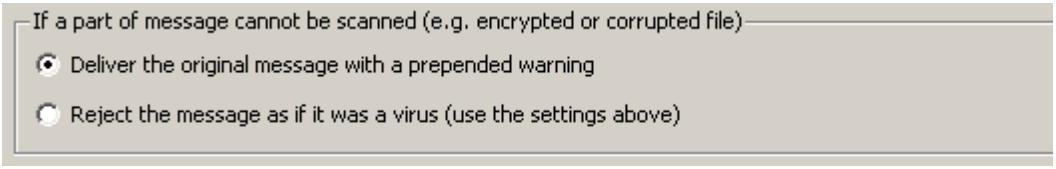


このフレームでは、メッセージでウィルスが検出された場合や、添付ファイルフィルタでメッセージが除外された場合に実行するアクションを指定します。

  - *メッセージを廃棄* - 選択すると、感染またはフィルタリングされたメッセージは削除されます。
  - *悪意のあるコードを除去してメッセージを配信* - 選択すると、メッセージは受信者に配信されますが、有害な可能性のある添付ファイルは除去されます。
  - *元のメッセージを管理者のアドレスに転送* - 選択すると、ウィルスに感染したメッセージは、[アドレス] テキストフィールドで指定したアドレスに転送されます。
  - *フィルタリングされたメッセージを管理者のアドレスに転送* - 選択すると、フィルタリングされたメッセージは、[アドレス] テキストフィールドで指定したアドレスに転送されます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- *メッセージの一部をスキャンできない場合 (暗号化ファイルや破損したファイルなど)*



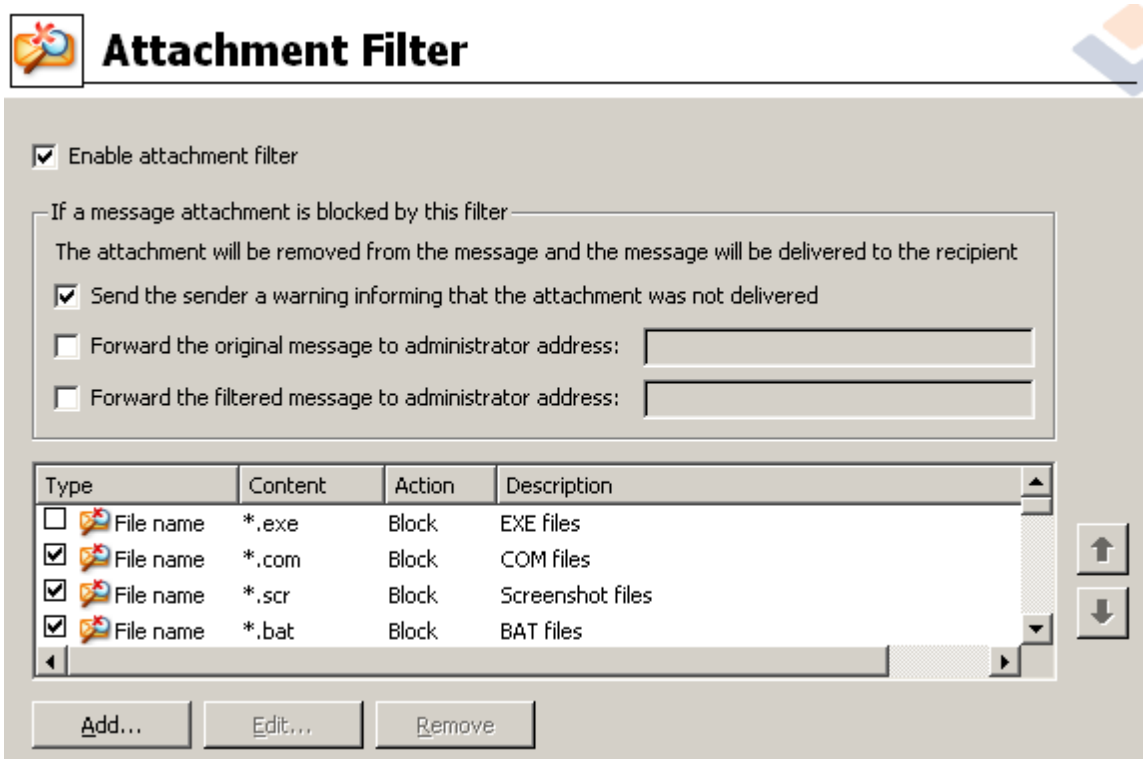
このフレームでは、メッセージや添付ファイルの一部をスキャンできない場合のアクションを指定します。

  - *元のメッセージを警告とともに配信* - メッセージまたは添付ファイルはチェックせずに配信されます。ユーザーはウィルスが含まれている可能性があるというメッセージ警告を受信します。

  - *ウィルスの場合と同様にメッセージを拒否* - システムはウィルスが検出された場合と同じ処理を実行します。つまり、メッセージは添付ファイルを削除してから配信されるか、拒否されます。このオプションは安全ですが、パスワード保護したアーカイブの送信は事実上不可能です。

6.1.2. 添付ファイルフィルタ

[添付ファイルフィルタ] メニューには、さまざまな添付ファイル定義のリストがあります。



[添付ファイルフィルタを有効にする] チェックボックスを選択すると、電子メール添付ファイルのフィルタリングの有効化/無効化を切り替えられます。任意で、次の設定を変更できます。

- *添付ファイルが配信されなかったという警告を送信者に送信*

  送信者は、Kerio MailServer から、ウィルスまたはブロックされた添付ファイルを含むメッセージを送信したことを示す警告を受信します。

- *元のメッセージを管理者のアドレスに転送*

  メッセージは、ローカルアドレスまたは外部アドレスに関係なく、定義した電子メールアドレスに転送されます (であるため、感染や禁止された添付ファイルが含まれます)。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- *フィルタリングされたメッセージを管理者のアドレスに転送*

  感染や禁止された添付ファイルが含まれないメッセージが指定された電子メールアドレスに転送されます (次に選択したアクションは除く)。これは、ウィルス対策または添付ファイルフィルタ、あるいはその両方が正しく機能していることを検証するために使用できます。

拡張子のリストでは、各アイテムに 4 つのフィールドがあります。

- *種類* - [コンテンツ] フィールドで指定された拡張子で判断される添付ファイルの種類を指定。選択できる種類は、ファイル名または MIME タイプです。このフィールドの該当するボックスを選択すると、添付ファイルフィルタにアイテムを追加/除外できます。

- *コンテンツ* - ここでフィルタリングする拡張子を指定できます。ここでは、オペレーティングシステムのワイルドカードを使用できます (例えば、文字列'*.doc.*' は、.doc 拡張子のすべてのファイルとそれに続くすべての拡張子を示します)。

- *アクション* - 特定の添付ファイルに対して実行するアクションを定義します。選択できるアクションは、許可 (添付ファイルを許可) とブロック ([アクション] タブダイアログで定義されている方法で添付ファイルをブロック) です。

- *説明* - このフィールドでは添付ファイルの説明を定義します。

[削除] ボタンをクリックすると、リストからアイテムが削除されます。[*追加...*] ボタンをクリックすると、リストに別のアイテムを追加できます。あるいは、[*編集...*] ボタンをクリックすると、既存のレコードを編集できます。次のウィンドウが表示されます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

- [説明] フィールドには、フィルタリングする添付ファイルの概要説明を入力できます。

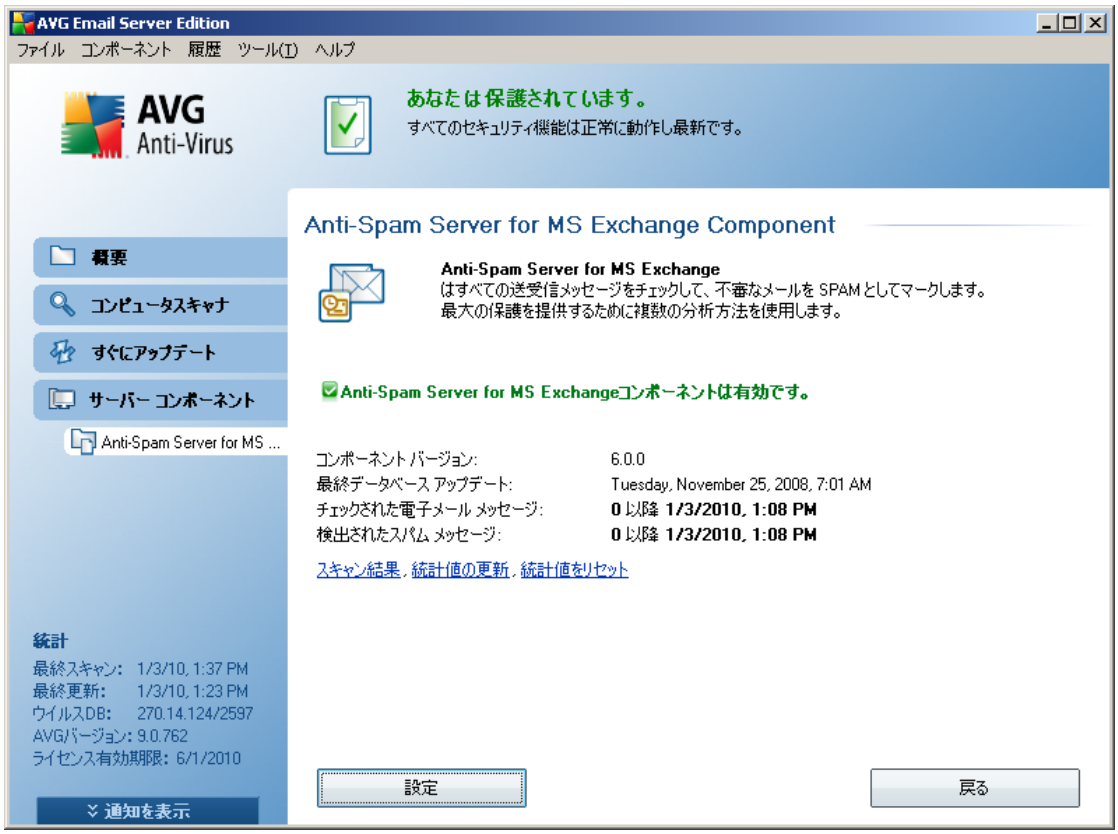
- [電子メールメッセージに添付ファイルが含まれる場合] フィールドでは、添付ファイルの種類 (ファイル名または MIME タイプ) を選択できます。表示される拡張子リストから特定の拡張子も選択できます。あるいは、拡張子ワイルドカードを直接入力できます。

[次の処理] フィールドでは、定義された添付ファイルを許可するか、ブロックするかを決定できます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

7. スパム対策コンフィグレーション

7.1. スパム対策インターフェース

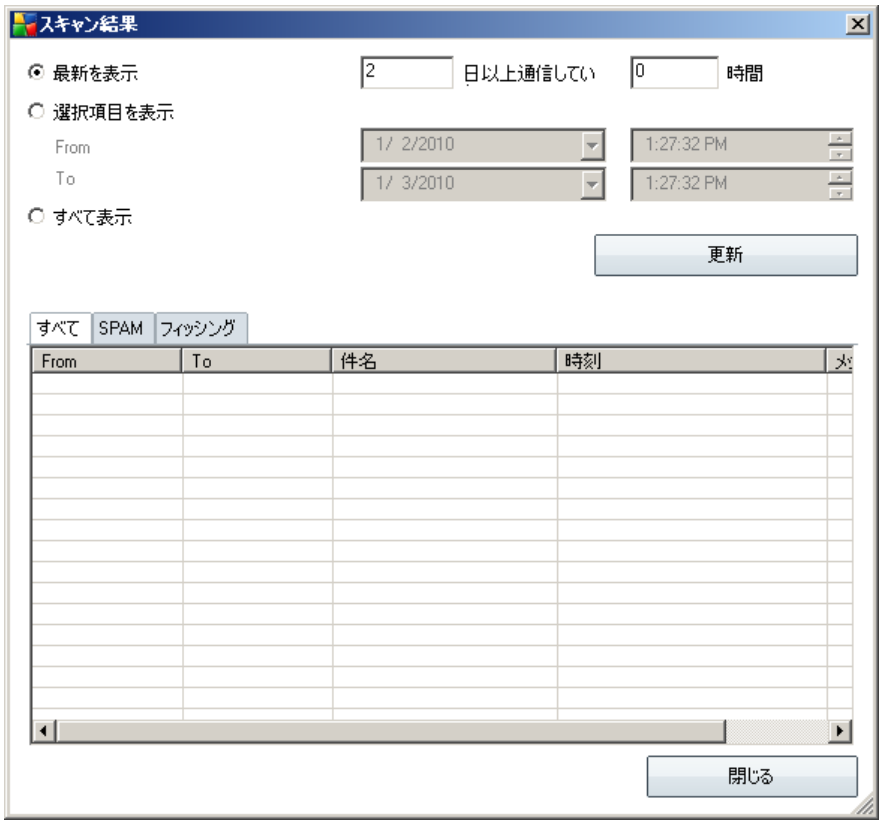


[*サーバーコンポーネント*] セクション (左側のメニュー) に、*スパム対策*サーバーコンポーネントのダイアログが表示されます。ここには、サーバーコンポーネントの機能に関する概要情報、現在のステータスに関する情報 (*MS Exchange 向けスパム対策サーバーコンポーネントはアクティブです*)、および一部の統計情報が表示されます。

利用可能なリンク:

- *スキャン結果*

  スパム対策スキャン結果を確認するための新しいダイアログが開きます。



ここでは、SPAM (望ましくないメッセージ) またはフィッシングの試み (個人情報データ、銀行詳細情報、ID などを盗む試み) のいずれかとして検出されたメッセージを確認できます。既定では、過去 2 日間の結果のみが表示されます。次のオプションを変更することで、表示期間を変更できます。

- *次の過去の期間内の結果を表示* - 希望の日数と時間数を入力します。
- *選択した期間の結果を表示* - カスタム日時間隔を選択します。
- *すべて表示* - 期間全体の結果を表示します。

[*更新*] ボタンを使用すると、結果をロードします。

- *統計値を更新* - 上記で表示される統計値を更新します。
- *統計値をリセット* - すべての統計値をゼロにリセットします。

次の操作ボタンがあります。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

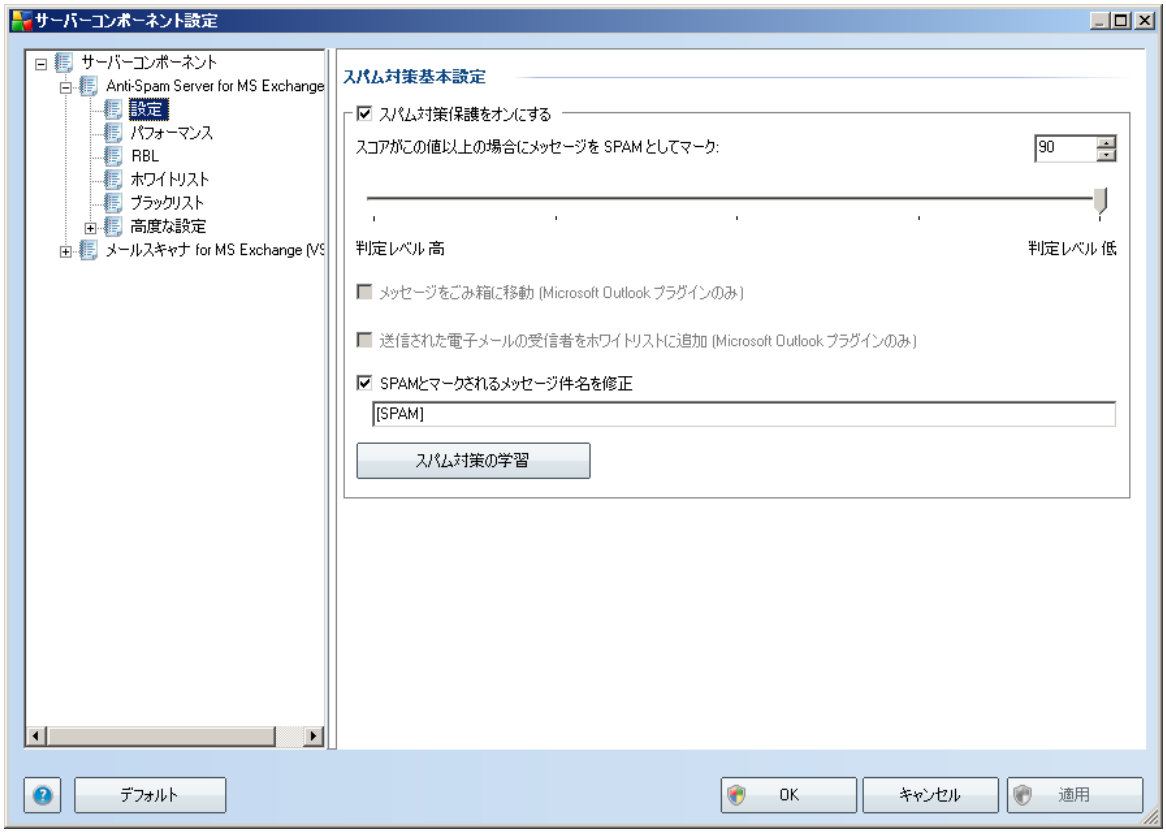
- *設定* – このボタンを使用すると、[スパム対策設定] を開きます。
- *戻る* – このボタンをクリックすると、サーバーコンポーネント概要

7.2. スパム対策基本

スパムとは、望まないメールであり、たいていは大量のメールアドレスに一度に送信され、受信者のメールボックスをいっぱいにする、製品やサービスの広告です。消費者が同意をした合法的な商業メールは、スパムではありません。スパムは迷惑なだけでなく、しばしば詐欺、ウイルス、不快な内容を含んでいます。

*スパム対策*は、すべての受信メールをチェックし、望ましくないメールをSPAMとマークします。複数の分析手法を使用して各メールを処理し、最大限の保護を提供します。

7.3. スパム対策設定



AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

[*スパム対策基本設定*] ダイアログでは、[*スパム対策保護をオン*] チェックボックスによって、スパム対策スキャンのオン/オフを切り替えることができます。

このダイアログでは、スコアの判定レベルを選択することができます。*スパム対策*フィルタは、複数の動的スキャン技術に基づいて、各メッセージにスコアを割り当てます（*例えば、メッセージの内容がSPAMにどの程度類似しているか等*）。[*スコアがこの値以上の場合スパムとしてマーク*] 設定を、値（*0から100*）を入力するか、スライダを左右に動かして（*スライダを使用すると、値の範囲は50から-90に制限されます*）、調整できます。

一般的には、閾値を50から90の間、不明な場合は、90に設定することを推奨します。以下はスコアの閾値の一般的な概要です。

- *値90-99*- 大部分の受信電子メールメッセージは通常通りに（スパムとしてマークされずに）配信されます。簡単に特定されるスパムはフィルタリングされますが、かなりの数のスパムが許可される可能性があります。
- *値80-89* - スパムの可能性が高いメールはフィルタリングされます。一部の正常なメッセージも誤って除去される可能性があります。
- *値60-79* - かなり積極的な設定です。スパムの可能性があるメールは除去されます。一部の正常なメッセージも除去される可能性があります。
- *値1-59*- 非常に積極的な設定です。正常なメールが、本物のスパムメールと同様に除去される可能性が高くなります。この値は通常の使用には推奨されません。
- *値0* - このモードでは、*ホワイトリスト*にある送信者からのメールのみが受信されます。その他のいかなるメールもスパムとみなされます。*この値は通常の使用には推奨されません。*

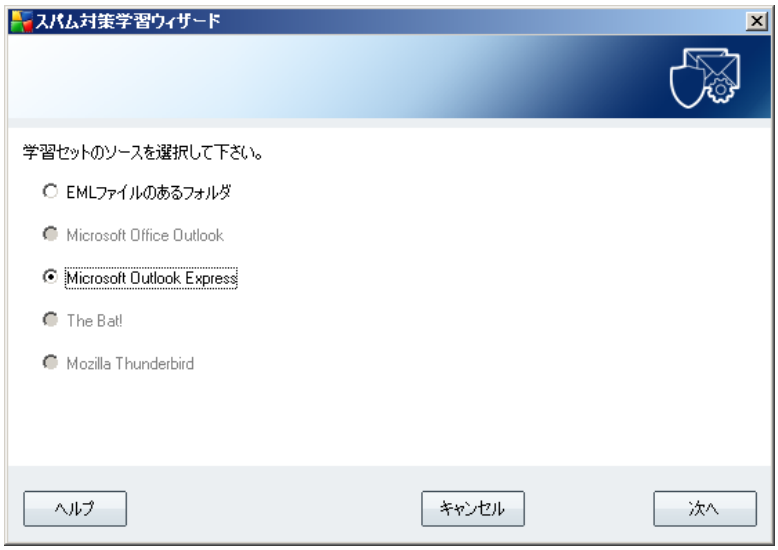
さらに、検出したスパム電子メールメッセージを処理する方法を定義できます。

- *スパムとして判定されたメッセージの件名を修正* - スパムとして検出されたメッセージの件名にを特定の単語や文字を追加したい場合、このチェックボックスにチェックを付けます。追加するテキストをテキストフィールドに入力します。

[*スパム対策の学習*] ボタンは、*次の章*で詳しく説明されているスパム対策学習ウィザードを実行します。

7.3.1. スパム対策学習ウィザード

*スパム対策学習ウィザード*の最初のダイアログでは、学習のためのメールソースを選択します。通常は、間違ってSPAMとしてマークされたメールや、認識されなかったスパムメッセージを使用します。



以下のオプションがあります。

- *特定のメールクライアント* - リストされたメールクライアントの 1 つ (*MS Outlook*、*Outlook Express*、*The Bat!*、*Mozilla Thunderbird*) を使用する場合、該当するオプションを選択します。

- *EMLファイルのあるフォルダ* - 他のメールプログラムを利用する場合、まずメッセージを特定のフォルダに保存 (*.eml*形式)、またはメールクライアントメッセージフォルダの場所を確認します。次に、*EMLファイルのあるフォルダ*を選択します。次のステップで希望するフォルダを指定します。

学習プロセスをより速く簡単にするために、学習に使用するフォルダーには学習用メッセージ (望ましいもの、望ましくないもの) のみを含むよう、予め整理しておくことをお勧めします。ただし、このウィザードでは、後のステップでメールをフィルタできるため、これは必ずしも必要ではありません。

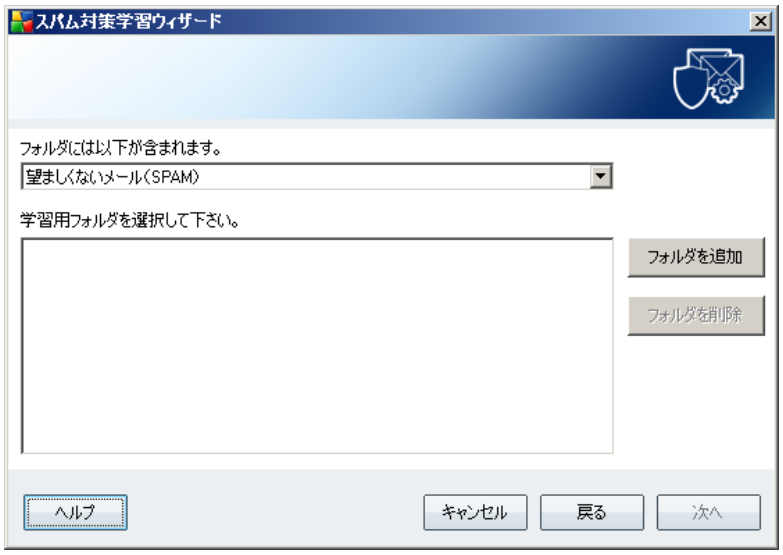
適切なオプションを選択し、*次へ*をクリックしてウィザードを継続します。

7.3.2. メッセージのあるフォルダを選択

このステップで表示されるダイアログは、以前の設定により異なります。

EMLファイルのあるフォルダ

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.



このダイアログでは学習に使用するメッセージフォルダを選択します。*フォルダを追加*ボタンを押し、.emlファイル(*保存されたメッセージ*)のあるフォルダを選択します。選択されたフォルダがダイアログに表示されます。

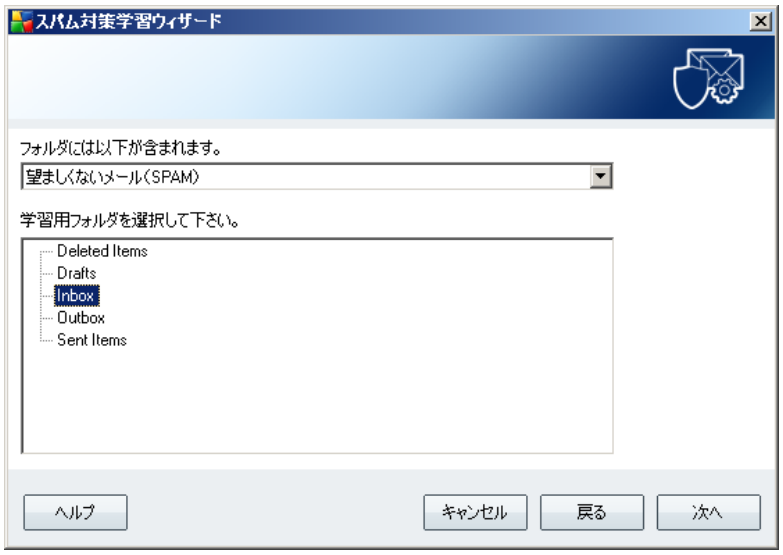
*フォルダに以下が含まれます。*ドロップダウンメニューには、2つのオプションが表示されます。ここでは選択されたフォルダが望ましい(*HAM*)メール、望ましくない(*SPAM*)メールのどちらを含むかを選択します。次のステップでメッセージをフィルタリングすることができます。フォルダは学習メールのみを含む必要はありません。また、*フォルダを削除*ボタンをクリックして、リストから選択されたフォルダを削除することができます。

*次*へをクリックし、*メッセージフィルタリングオプション*に進みます。

特定のメールクライアント

オプションのいずれかを確認した場合、新しいダイアログが表示されます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

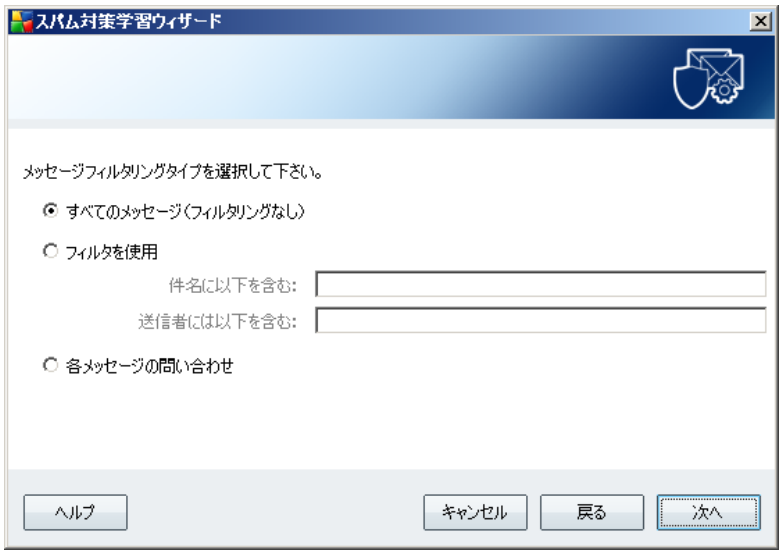


注意：Microsoft Office Outlookの場合、最初にMicrosoft Office Outlookプロファイルを選択します。

フォルダに以下が含まれます。ドロップダウンメニューには、2つのオプションが表示されます。ここでは選択されたフォルダが望ましい（*HAM*）メール、望ましくない（*SPAM*）メールのどちらを含むかを選択します。次のステップでメッセージをフィルタリングすることができます。フォルダは学習メールのみを含む必要はありません。選択されたメールクライアントナビゲーションツリーが表示されます。ツリー上で、希望のフォルダ選択します。

*次へ*をクリックし、*メッセージフィルタリングオプション*に進みます。

7.3.3. メッセージフィルタリングオプション



このダイアログでは、メールメッセージのフィルタリングを設定します。

選択されたフォルダが学習に使用したいメッセージのみを含むことが確実な場合は、*すべてのメッセージ(フィルタなし)*オプションを選択します。

フォルダに含まれるすべてのメッセージについて確認(学習するかどうかを決定できるように)する場合、[*各メッセージを確認*] オプションを選択します。

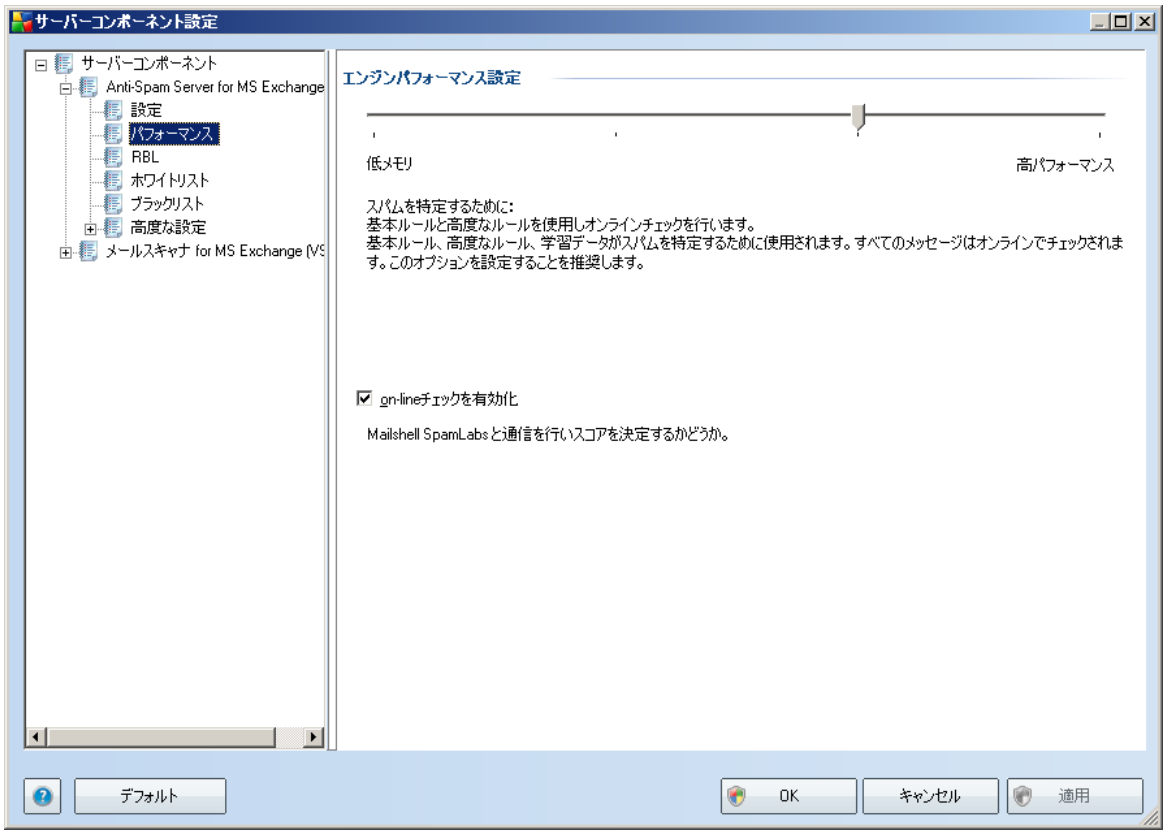
高度なフィルタを使用する場合、*フィルタを使用*オプションを選択します。メールの件名、送信者欄で検索する場合、単語(*名前*)、単語の一部、フレーズを入力します。正確に条件にマッチするメッセージ全てが学習に使用されます。

注意！両方のテキストフィールドに入力すると、2つの条件のうちのいずれかにマッチするアドレスが使用されます。

適切なオプションを選択し、[*次へ*] をクリックします。以後のダイアログは情報のみが表示され、ウィザードがメッセージを処理する準備ができていることを示します。学習を開始するには*次へ*ボタンを再度クリックします。学習は、選択された条件に応じて開始されます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

7.4. パフォーマンス



*エンジンパフォーマンス設定*ダイアログ(左側のナビゲーションの*パフォーマンス*を*選択すると表示されます*)では、*スパム対策*コンポーネントのパフォーマンスを設定します。*低メモリ*/*高パフォーマンス*の間でスライダを左右に動かし、スキャンパフォーマンスレベルを変更します。

- *低メモリ* - スパムを判定するスキャンプロセス中に、ルールは使用されません。トレーニングデータのみが判定に使用されます。このモードは、コンピュータハードウェアが非常に劣っている場合等を除いて、一般の利用には推奨されません。

- *高パフォーマンス* - このモードでは大量のメモリを消費します。スパムスキャン中は、以下の機能が使用されます。ルールとスパムデータベースキャッシュ、基本ルール、高度なルール、スパム送信者IPアドレス、スパム送信者データベース。

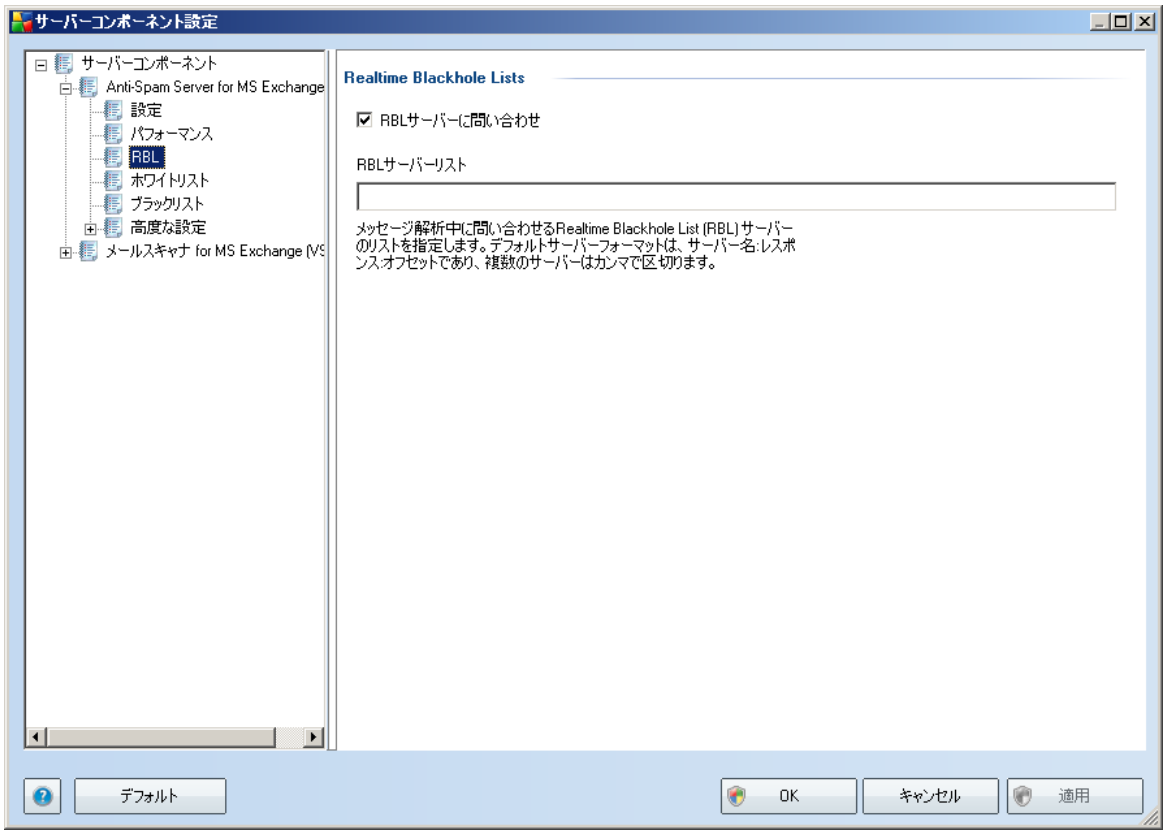
*on-lineチェックを有効化*はデフォルトでオンとなっています。これにより、Mailshellサーバーとの通信を介して、より正確なスパム***検出が実行されます。例えば、スキャン

されたデータは、Mailshellデータベースとオンラインで比較されます。

一般的には、デフォルト設定を保持し、合理的な理由がある場合にのみ変更することを推奨します。この設定の変更は経験のあるユーザーのみが行ってください。

7.5. RBL

***RBL**は リアルタイムブラックホールリスト*と呼ばれる編集ダイアログを開きます。



このダイアログでは、*RBLサーバーに問い合わせ*機能をオン/オフにすることができます。

RBL（*リアルタイムブラックホールリスト*）サーバーは、既知のスパム送信者の拡張データベースを含むDNSサーバーです。この機能がオンの場合、すべてのメールはRBLサーバーデータベースに対して検証され、このデータベースエントリと一致する場合に、スパムとして判定されます。

RBLサーバーデータベースには最新スパムのフィンガープリントが含まれ、最高で最も正確なスパム検出を提供します。この機能は、特に通常のスパム対策エンジンでは検出されないような大量のスパムを受信するユーザーに適しています。

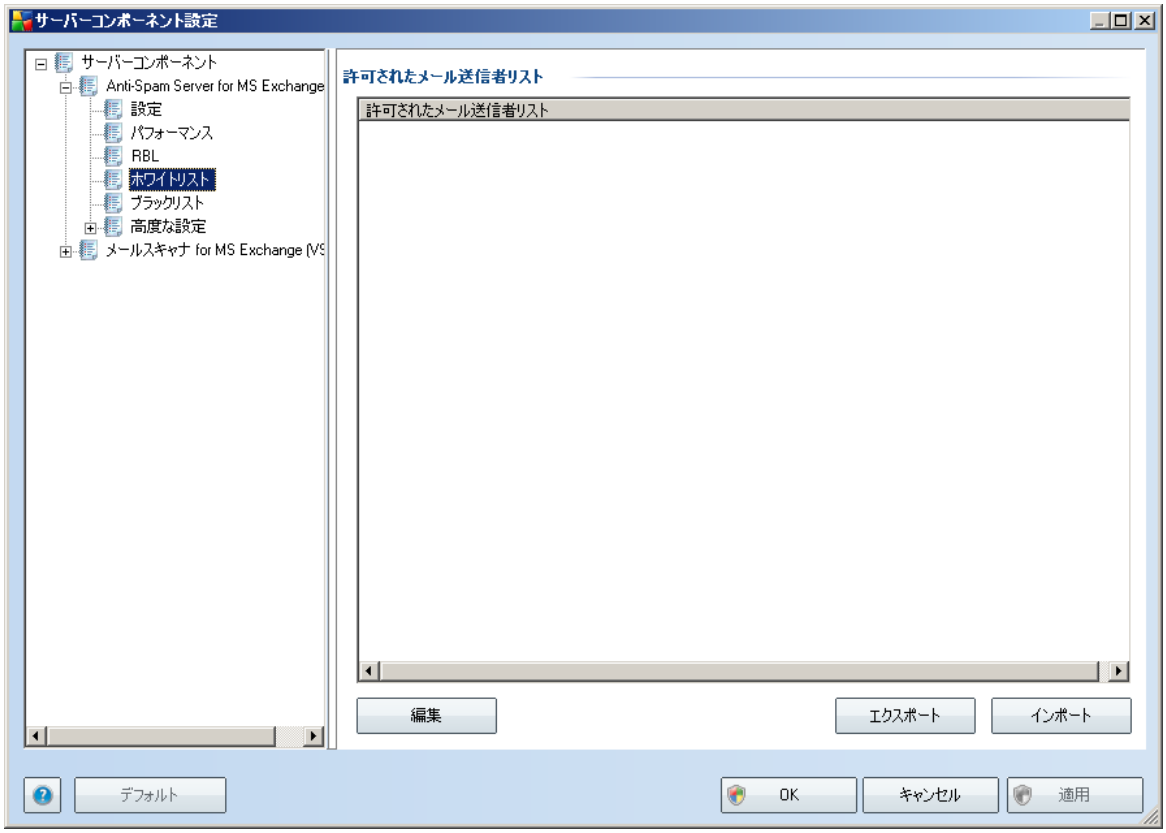
*RBLサーバーリスト*では、特定のRBLサーバーの場所を定義できます。デフォルトでは、2つのRBLサーバーアドレスが指定されています。経験のあるユーザーではなく、この設定を変更する必要が特にない場合、デフォルト設定を保持することを推奨します。

注意：この機能を有効化すると、すべての個々のメッセージがRBLサーバーデータベースに対して検証されるため、一部のシステムと設定では、メール受信プロセスの速度が低下する場合があります。

いかなる個人データもサーバーには送信されません。

7.6. ホワイトリスト

*ホワイトリスト*は、メッセージが決して[スパム](#)としてマークされない送信者のメールアドレスとドメイン名のリストです。



編集インターフェースでは、望ましくないメッセージ（[スパム](#)）が送信されないことが確実である送信者のリストを編集できます。また、スパムメッセージが生成されないことがわかっているドメイン名（*avg.com等*）のリストを編集します。

スパム送信者やドメイン名のリストをお持ちの場合、以下の方法でそのリストを入力することができます。各メールアドレスを直接入力、または一度にアドレスの全リストをインポートします。次のコントロールボタンが提供されています。

- *編集- このボタンをクリックすると、ダイアログが開きます。このダイアログでは、手動でアドレスのリストを入力できます（コピーと貼り付けも使用できます）。*1行に1アイテム（送信者、ドメイン名）を入力します。
- *インポート-* すでにメールアドレスやドメイン名のテキストファイルお持ちの場

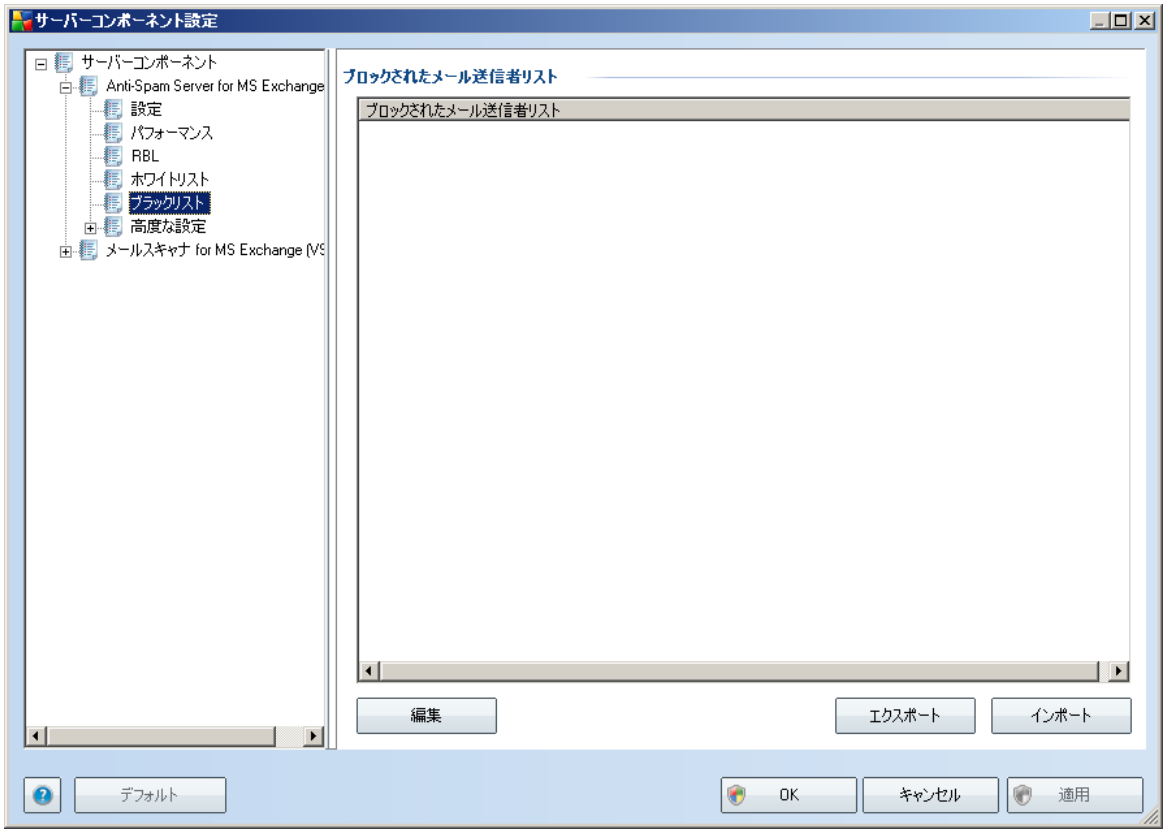
AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

合、このボタンを選択することで単純にそのリストをインポートすることができます。入力ファイルはプレーンテキスト形式であり、1行に1アイテム（送信者、ドメイン名）が記載されている要があります。

- *エクスポート*- なんらかの目的で、レコードをエクスポートする場合は、このボタンを押してください。すべてのレコードがプレーンテキスト形式で保存されます。

7.7. ブラックリスト

*ブラックリスト*は、スパム送信者としてブロックするメールアドレスとドメイン名のリストを含むダイアログを開きます。



編集インターフェースでは、望ましくないメッセージ（スパム）を送信するであろう送信者のリストを編集します。また、スパムメッセージを送信するドメイン名リスト（*spammingcompany.com*等）を編集します。リスト中のアドレスとドメインからのメールは、すべてスパムとして判定されます。

スパム送信者やドメイン名のリストをお持ちの場合、以下の方法でそのリストを入力することができます。各メールアドレスを直接入力、または一度にアドレスの全リストをインポートします。次のコントロールボタンが提供されています。

- *編集* - *このボタンをクリックすると、ダイアログが開きます。このダイアログでは、手動でアドレスのリストを入力できます(コピーと貼り付け*も使用できます)。1行に1アイテム(送信者、ドメイン名)を入力します。

- *インポート* - すでにメールアドレスやドメイン名のテキストファイルお持ちの場合、このボタンを選択することで単純にそのリストをインポートすることができます。入力ファイルはプレーンテキスト形式であり、1行に1アイテム(送信者、ドメイン名)が記載されている要があります。

- *エクスポート* - なんらかの目的で、レコードをエクスポートする場合は、このボタンを押してください。すべてのレコードがプレーンテキスト形式で保存されます。

7.8. 高度な設定

通常はデフォルト設定を保持し、合理的な理由がある場合にのみ設定を変更することを推奨します。この設定の変更は経験のあるユーザーのみが行ってください。

高度なレベルで Anti-Spam の設定を変更する必要があると思う場合、ユーザーインターフェースで直接提供される指示に従ってください。各ダイアログでは、1つの特定機能を確認することができ、それを編集することができます。その説明は常にダイアログに表示されます。

- *キャッシュ* - フィンガープリント、ドメインレピュテーション、LegitReputе

- *学習* - 単語学習、スコア履歴、スコアオフセット、最大単語入力数、自動学習閾値、ウェイト、書き込みバッファ

- *フィルタリング* - 言語リスト、国リスト、許可されたIP、ブロックするIP、ブロックする国、ブロックする文字セット、スプーフィング

- ***RBL*** - RBLサーバー、マルチヒント、閾値、タイムアウト、最大IP

- *インターネット接続* - タイムアウト、プロキシサーバー、プロキシサーバー認証

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

8. AVG 設定マネージャ

*AVG 設定マネージャ*は主に、AVG 設定をコピー、編集、配布ができる小規模ネットワークに適したツールです。設定はポータブルデバイスに保存できます(USB フラッシュドライバなど)。その後、選択したステーションに手動で適用することができます。

ツールは AVG インストールに含まれており、Windows の [スタート] メニューから利用可能です。

[すべてのプログラム/AVG9.0/AVG 設定マネージャ

- [*このコンピュータの AVG 設定を編集する*

  このボタンを使い、ローカル AVG の高度な設定ダイアログを開きます。ここで行われたすべての変更は、ローカル AVG インストールにも反映されます。

- [*AVG 設定ファイルを読み込み編集する*

  すでに AVG 設定ファイル (.pck) を持っている場合は、このボタンからファイルを開き、編集してください。[***OK***] または [*適用*]ボタンをクリックして変更を確定すると、ファイルは新しい設定に置き換えられます。

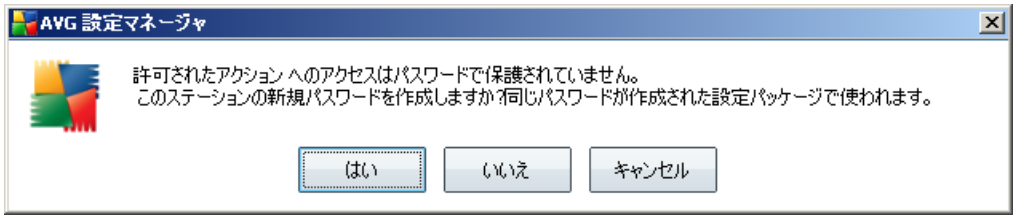
- [*ファイルからこのコンピュータの AVG に設定を適用する*

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

このボタンから AVG 設定ファイル (.pck) を開き、ローカル AVG インストールに適用してください。

- [*ローカル AVG 設定をファイルに保存*

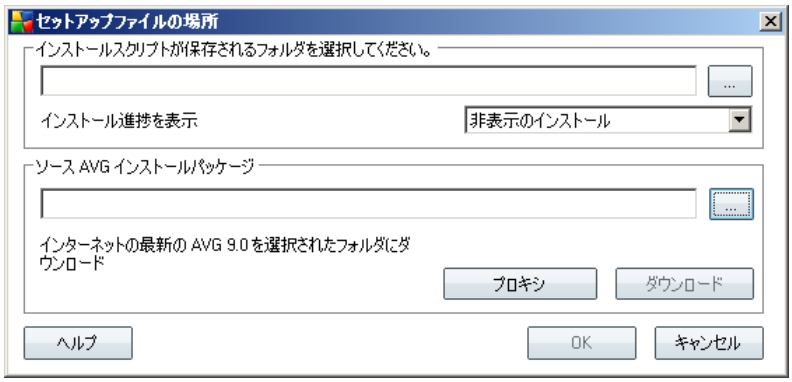
  このボタンから AVG 設定ファイル (.pck) をローカル AVG インストールに保存してください。[許可されたアクション] にパスワードを設定しなかった場合は、次のダイアログが表示されることがあります。



  許可されたアイテムへのアクセスにパスワードを設定する場合は、[*はい*] をクリックして、必要な項目に情報を入力してください。パスワード作成をスキップし、ローカル AVG 設定をファイルに保存へ進む場合は [*いいえ*] をクリックしてください。

- [*AVG インストールのクローンを作成*

  このオプションは、カスタムオプションを含んだインストールパッケージを作成することで、ローカル AVG インストールの正確なコピーを作成できます。これを実行するには、まずインストールスクリプトを保存するフォルダを選択します。



  その後、ドロップダウンメニューから次のいずれかを選択してください。

  - *インストールを非表示* - セットアッププロセス中は情報が表示されませ

ん。

- *インストールプロセスのみを表示* - インストールはユーザーの操作を必要としませんが、進捗状況はすべて表示されます。
- *インストールウィザードを表示* - インストールは表示され、ユーザーは手動で各手順を確認する必要があります。

[*ダウンロード*] ボタンをクリックして、最新の AVG インストールパッケージを直接 AVG ウェブサイトから選択されたフォルダにダウンロードするか、手動で AVG インストールパッケージをフォルダに保存してください。

正常な接続を行うために、ネットワークにプロキシサーバー設定が必要な場合は、[*プロキシ*] ボタンを使用して、プロキシサーバーを定義してください。

[***OK***] ボタンをクリックすることで、終了プロセスが開始されまもなく完了します。許可されたアイテム（前述の説明を参照）の設定パスワードを確認するダイアログが表示される場合があります。終了すると、***AvgSetup.bat*** が選択されたフォルダに格納され、その他ファイルと共に利用可能となります。***AvgSet.bat*** ファイルを実行すると、前の手順で選択したパラメータに基づいて AVG がインストールされます。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.

9. FAQ およびテクニカルサポート

AVG に関する問題がある場合、購入に関する問題、技術的問題にかかわらず、AVG Webサイト（http://www.avg.com）の ***FAQ*** を参照してください。

この方法でヘルプが見つからない場合は、電子メールでテクニカルサポート部門までお問い合わせください。システムメニューの*ヘルプ/オンラインヘルプ*より、お問い合わせフォームをご利用ください。

AVG 9.0 Email Server Edition © 2010 Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.